



Sun Blade™ X6270 サーバーモジュール Linux、VMware、および Solaris オペレーティング システムインストールガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 820-7768-10
2009 年 3 月 Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright © 2009 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に組み込まれた技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Java、Sun Blade は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社またはその子会社の商標もしくは登録商標です。Sun のロゴおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

Intel は Intel Corporation またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。Adobe のロゴマークは、Adobe Systems, Inc. の登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

予備または交換用の CPU の使用は、米国の輸出法に従って輸出された製品に搭載されている CPU の修理または 1 対 1 での交換に制限されています。米国政府の許可なしに、製品のアップグレードに CPU を使用することは、厳重に禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。



Please
Recycle



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

1. オペレーティングシステムのインストールの計画 1
 - サポート対象オペレーティングシステム 2
 - インストール済みの Solaris 10 イメージ 3
 - インストールの前提条件 4
 - インストール方法 6
 - コンソール出力 6
 - インストールブートメディア 7
 - インストールターゲット 9
 - 新規インストールの BIOS 設定の確認 10
 - 作業を開始する前に 11
 - ▼ 新規インストールの BIOS 設定の表示または編集 11
2. SUSE Linux Enterprise Server のインストール 15
 - SLES 10 インストールの作業マップ 16
 - ローカルまたは遠隔メディアを使用した SLES10 のインストール 17
 - 作業を開始する前に 17
 - ▼ ローカルまたは遠隔メディアを使用した SLES10 のインストール 18

PXE ネットワーク環境を使用した SLES10 のインストール	20
作業を開始する前に	21
▼ ネットワーク PXE ブートを使用した SLES10 のインストール	21
SLES 10 インストール後の作業	23
SLES 10 オペレーティングシステムの更新	23
▼ SLES 10 オペレーティングシステムの更新	24
追加のハードウェアをサポートするシステムデバイスドライバのインストール	25
Wake On LAN のサポートを有効にする	25
3. Red Hat Enterprise Linux のインストール	27
RHEL のインストールの作業マップ	28
ローカルまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール	29
作業を開始する前に	30
▼ ローカルまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 のインストール	31
▼ ローカルまたは遠隔メディアを使用した RHEL5 のインストール	34
PXE ネットワーク環境を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール	37
作業を開始する前に	37
▼ ネットワーク PXE ブートを使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール	38
RHEL インストール後の作業	39
追加のハードウェアをサポートするシステムデバイスドライバのインストール	39
Wake On LAN のサポートを有効にする	40
4. VMware のインストール	41
VMware サービスコンソールのネットワークインタフェース接続の計画	42
VMware ESX または ESXi のインストール	44
作業を開始する前に	44
▼ VMware ESX または ESXi のインストール	45

5.	Solaris 10 のインストール	47
	Solaris 10 インストールの作業マップ	48
	ローカルまたは遠隔メディアを使用した Solaris 10 のインストール	49
	作業を開始する前に	49
	▼ ローカルまたは遠隔メディアを使用した Solaris 10 のインストール	50
	PXE ネットワーク環境を使用した Solaris 10 OS のインストール	55
	作業を開始する前に	55
	▼ ネットワーク PXE ブートを使用した Solaris 10 のインストール	56
	Solaris インストール後の作業	61
	追加のハードウェアをサポートするシステムデバイスドライバのインストール	61
	重要な Solaris パッチのインストール	62
	Wake On LAN のサポートを有効にする	62
	RAID 管理ソフトウェアのインストール	62
A.	ネットワークインタフェースカードの PCI バス番号から物理ネットワークポートへの変換	63
	索引	67

はじめに

本書『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Linux、VMware、および Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』では、サーバーを構成可能、使用可能な状態にするためのオペレーティングシステムのインストールおよびソフトウェアの初期構成に関する手順について説明します。

本書は、技術者、システム管理者、承認サービスプロバイダ (authroized service providers、ASP)、およびオペレーティングシステムのインストールについて十分な経験を持つユーザーを対象としています。

製品のアップデート

Sun Blade™ X6270 サーバーモジュールに対してダウンロード可能な製品アップデートについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/download/>

「Hardware Drivers」セクションを探して、「x64 Servers & Workstations」をクリックします。Sun Blade X6270 サーバーモジュールのサイトには、ファームウェア、ドライバ、および CD-ROM ISO イメージのアップデートがあります。

関連マニュアル

次の表に記載されているドキュメントは、次の Web サイトから入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/blade.x6270>

タイトル	内容	Part No.	形式
『Sun Blade X6270 サーバーモジュールご使用にあたって』	サーバーモジュールに関する最新情報	820-7777	PDF HTML
『Sun Blade X6270 サーバーモジュールご使用の手引き』	サーバーモジュールを設定するための基本的なインストール情報	820-7762	PDF 印刷版
『Sun Blade X6270 サーバーモジュール設置マニュアル』	サーバーモジュールを設定するための詳細なインストール情報	820-7765	PDF HTML 印刷版 (別売り)
『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Linux、VMware、および Solaris オペレーティングシステムインストールガイド』	Linux、VMware、および Solaris オペレーティングシステム用のインストール手順	820-7768	PDF HTML
『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Windows オペレーティングシステムインストールガイド』	Windows Server オペレーティングシステム用のインストール手順	820-7771	PDF HTML
『Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド』	Windows または Linux オペレーティングシステムのインストール時に Sun Installation Assistant (SIA) を使用する手順	820-6352	PDF HTML
『Sun Blade X6270 Server Module Service Manual』	サーバーモジュールを管理およびアップグレードするための情報および手順	820-6178	PDF HTML
『X64 Servers Utilities Reference Manual』	x64 サーバーおよびサーバーモジュールに共通のアプリケーションおよびユーティリティを使用するための情報	820-1120	PDF HTML
『Sun x64 Servers Diagnostics Guide』	x64 サーバーで提供される診断ソフトウェアツールの使用方法に関する情報	820-6750	PDF HTML

タイトル	内容	Part No.	形式
『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』	ILOM をサポートするサーバーおよびサーバーモジュールに共通の ILOM 機能およびタスク	820-2698	PDF HTML
『Sun Integrated Lights Out Manager (ILOM) 補足マニュアル Sun Blade X6270 サーバーモジュール』	サーバーモジュールに固有の ILOM 情報	820-7774	PDF HTML
『Important Safety Information for Sun Hardware Systems』	すべての Sun ハードウェアシステムについての、多言語対応ハードウェアの安全性とコンプライアンスに関する情報	816-7190	印刷版

これらのドキュメントの一部については、上記の Web サイトでフランス語、簡体字中国語、および日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

マニュアル、サポート、およびトレーニング

Sun のサービス	URL
Sun のドキュメント	http://docs.sun.com
サポート	http://jp.sun.com/support/
トレーニング	http://jp.sun.com/training/

書体と記号について

書体または記号*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を実行します。 <code>% You have mail.</code>
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	<code>% su</code> Password:
<i>AaBbCc123</i>	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	<code>rm filename</code> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	<code>% grep `^#define` \ XV_VERSION_STRING'</code>

* 使用しているブラウザにより、これらの設定と異なって表示される場合があります。

サードパーティーの Web サイト

このマニュアルで紹介する Sun 以外の Web サイトが使用可能かどうかについては、Sun は責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、Sun は保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や、それらへの依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、Sun は一切の責任を負いません。

UNIX コマンド

このマニュアルには、システムの停止、システムの起動、デバイスの構成などに使用する基本的な UNIX® コマンドと操作手順に関する説明は含まれていない可能性があります。これらについては、以下を参照してください。

- 使用しているシステムに付属のソフトウェアマニュアル
- 下記にある Solaris™ オペレーティングシステムのマニュアル

<http://docs.sun.com>

コメントをお寄せください

マニュアルの品質改善のため、お客様からのご意見およびご要望をお待ちしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

ご意見をお寄せいただく際には、下記のタイトルと Part No. を記載してください。

Sun Blade X6270 サーバーモジュール Linux、VMware、および Solaris オペレーティングシステムインストールガイド、Part No. 820-7768-10。

第1章

オペレーティングシステムのインストールの計画

この章では、Sun Blade X6270 サーバーモジュールへのオペレーティングシステムのインストールを適切に計画するために必要な情報を説明します。

この章は、次の節で構成されています。

- [2 ページの「サポート対象オペレーティングシステム」](#)
- [4 ページの「インストールの前提条件」](#)
- [6 ページの「インストール方法」](#)
- [10 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」](#)

サポート対象オペレーティングシステム

Sun Blade X6270 サーバーモジュールは、次のオペレーティングシステムまたはその後継のオペレーティングシステムでのインストールと使用をサポートしています。

表 1-1 サポート対象オペレーティングシステム

オペレーティングシステム	サポート対象バージョン	詳細
Windows	<ul style="list-style-type: none">• Microsoft Windows Server 2003 Enterprise Edition (R2 SP2 または SP2) (32 ビットおよび 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2003 Standard Edition (R2 SP2 または SP2) (32 ビットおよび 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 Standard Edition (32 ビットまたは 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 Enterprise Edition (32 ビットまたは 64 ビット)• Microsoft Windows Server 2008 Datacenter Edition (32 ビットまたは 64 ビット)	<ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6270 Server Module Windows Installation Guide
Linux	<ul style="list-style-type: none">• Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 4.7 (32 ビットおよび 64 ビット)• RHEL 5.3 (64 ビット)• SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 SP2 (64 ビット)	<ul style="list-style-type: none">• 15 ページの第 2 章「SUSE Linux Enterprise Server のインストール」
Solaris	<ul style="list-style-type: none">• Solaris 10 10/08	<ul style="list-style-type: none">• 47 ページの第 5 章「Solaris 10 のインストール」
¹ OpenSolaris	<ul style="list-style-type: none">• OpenSolaris 2008.11	<ul style="list-style-type: none">• http://jp.opensolaris.org/
VMware	<ul style="list-style-type: none">• VMware ESX 3.5 Update 4• VMware ESXi 3.5 Update 4	<ul style="list-style-type: none">• 41 ページの第 4 章「VMware のインストール」

¹OpenSolaris 2008 は、Sun の Solaris オペレーティングシステム用オープンソースプロジェクトに基づいています。OpenSolaris 2008 は Sun Blade X6270 サーバーモジュールでサポートされていますが、インストールと設定の手順は本書では説明していません。OpenSolaris 2008 の詳細とインストールの手順については、次の Web サイトを参照してください。
<http://dlc.sun.com/osol/g11n/content/2008.11/getstart/ja/index.html>

インストール済みの Solaris 10 イメージ

Solaris 10 オペレーティングシステムのイメージを発注している場合は、ハードディスクドライブにインストールされて出荷されています。このドライブに別のオペレーティングシステムをインストールする必要がある場合は、次のいずれかを選択できます。

- ローカルドライブを区分化して、Solaris 10 OS イメージを削除します。

または

- ローカルドライブを区分化して、デュアルブートオペレーティングシステム設定をサポートします。

本書の後半で説明する Linux および Solaris オペレーティングシステムのインストール手順で、インストールプログラムの適切な場所を説明します。ここでドライブを区分化して Solaris 10 イメージを削除するか、デュアルブートオペレーティングシステム設定をサポートできます。

注 – Solaris 10 のインストール済み OS イメージを設定するには、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Installation Guide』の Solaris 10 OS インストール済み OS の章を参照してください。

インストールの前提条件

オペレーティングシステムをインストールする前に次の要件を満たしてください。

表 1-2 OS インストールの前提条件

要件	必須または省略可能	詳細
サーバーモジュールをインストールし、シャーシで電源を投入します。	必須	<ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6270 サーバーモジュール設置マニュアル
サーバーで SP ネットワーク管理ポートと IP アドレスを設定するようにしてください。	必須	<ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6270 サーバーモジュール設置マニュアル または <ul style="list-style-type: none">• 『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』
サーバーモジュール SP にインストールされた ILOM ファームウェアのバージョンは、シャーシ監視モジュール (Chassis Monitoring Module, CMM) にインストールされた ILOM ファームウェアのバージョンに一致します。 注 - ILOM ファームウェアのバージョンは 2.0.3.10 以降をお勧めします。	推奨	<ul style="list-style-type: none">• 『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』の「ILOM ファームウェアの更新」の章 または <ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6270 サーバーモジュール用サーバーソフトウェアのダウンロードは次の URL で入手できます。 http://www.sun.com/servers/x64/x6270/downloads.jsp
インストールを実行するためのコンソールオプションとメディアオプション、およびインストールターゲットを選択します。	必須	<ul style="list-style-type: none">• 6 ページの「インストール方法」
BIOS ユーティリティが出荷時のデフォルトに設定されていることを確認します。	推奨*	
	*ローカルディスクドライブ OS インストールターゲットの場合	<ul style="list-style-type: none">• 10 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」
ホストバスアダプタ (Host Bus Adapter, HBA) (REM または FEM など) が設定された SATA または SAS ディスクドライブ上で RAID を設定します。HBA に付属のドキュメントを参照してください。	必須*	<ul style="list-style-type: none">• サーバーのディスクドライブを追加または交換する手順については、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Service Manual』を参照してください。• Sun Disk Management Overview For x64 Sun Fire and Sun Blade Series Servers (820-6350)

表 1-2 OS インストールの前提条件 (続き)

要件	必須または省略可能	詳細
<p>該当するベンダーのオペレーティングシステムインストールドキュメントを収集します。</p> <p>注 - オペレーティングシステムベンダーのドキュメントは、本書の指示とあわせて使用することをお勧めします。</p>	推奨	<ul style="list-style-type: none"> • 該当するオペレーティングシステムベンダーのドキュメント • Solaris 10 10/08 ドキュメントコレクション http://docs.sun.com/app/docs/coll/1236.9?l=en • OpenSolaris 2008.11 ドキュメント http://dlc.sun.com/osol/g11n/content/2008.11/getstart/ja/index.html • Red Hat Enterprise Linux ドキュメントコレクション http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-5-manual/ja-JP/index.html • Novell の SUSE Linux Enterprise Server ドキュメントコレクション http://www.novell.com/documentation/suse • VMware ESX または ESXi ドキュメント http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html
<p>サーバーに付属のツールとドライバの DVD を用意します。</p> <p>注 - OS のインストールにデバイスドライバが必要な場合、デバイスドライバはツールとドライバの DVD で提供されます。</p>	必須	<ul style="list-style-type: none"> • Sun Blade X6270 サーバーモジュール ツールとドライバの DVD <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun Blade X6270 サーバーモジュール用のツールとドライバの DVD のダウンロードバージョンは、次の URL から入手できます。 http://www.sun.com/servers/x64/x6270/downloads.jsp
<p>サポートされるオペレーティングシステムのソフトウェアとパッチに関する最新情報は、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Product Notes』を参照してください。</p>	推奨	<ul style="list-style-type: none"> • Sun Blade X6270 サーバーモジュール Product Notes

インストール方法

使用しているインフラストラクチャーで最適なインストール方法を判断するには、次の節に要約したオプションおよび要件を検討してください。

- 6 ページの「コンソール出力」
- 7 ページの「インストールブートメディア」
- 9 ページの「インストールターゲット」

コンソール出力

表 1-3 に、オペレーティングシステムのインストールの入出力に使用できるコンソールを示します。

表 1-3 OS インストールを実行するためのコンソールオプション

コンソール	説明	設定の要件
ローカルコンソール	<p>ローカルコンソールをサーバー SP に直接接続して、OS のインストールおよびサーバーの管理を実行できます。</p> <p>ローカルコンソールの例には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• シリアルコンソール• VGA コンソール (USB キーボードおよびマウスを使用)	<ol style="list-style-type: none">1. ドングルケーブルを使用して、ローカルコンソールをサーバーに接続します。 詳細については、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Installation Guide』の「Attaching Devices to the Server」を参照してください。2. ILOM プロンプトで、ILOM ユーザー名とパスワードを入力します。3. シリアルコンソール接続のみの場合は、start /SP/console と入力して、ホストシリアルポートへの接続を確立します。 ビデオ出力がローカルコンソールに自動的にルーティングされます。 サーバー SP への接続の確立の詳細については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。

表 1-3 OS インストールを実行するためのコンソールオプション (続き)

コンソール	説明	設定の要件
リモートコンソール	<p>サーバー SP へのネットワーク接続を確立して、リモートコンソールから OS のインストールとサーバーの管理を実行できます。リモートコンソールの例には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションを使用した Web ベースのクライアント接続 • シリアルコンソールを使用した SSH クライアント接続 	<ol style="list-style-type: none"> 1. サーバー SP の IP アドレスを確立します。 詳細については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。 2. リモートコンソールとサーバー SP の接続を確立します。 <ul style="list-style-type: none"> • Web ベースのクライアント接続の場合は、次のステップを実行します。1) Web ブラウザでサーバー SP の IP アドレスを入力します。2) ILOM Web インタフェースにログインします。3) Sun ILOM リモートコンソールを起動して、ビデオ出力をサーバーから Web クライアントにリダイレクトします。4) デバイスメニューでデバイスの切り替え (マウス、キーボードなど) を有効にします。 • SSH クライアント接続の場合は、次のステップを実行します。 <ol style="list-style-type: none"> 1) シリアルコンソールからサーバー SP への SSH 接続を確立します (ssh root@ipaddress)。2) ILOM コマンド行インタフェースにログインします。3) start /SP/console と入力して、シリアル出力をサーバーから SSH クライアントにリダイレクトします。 <p>ILOM SP へのリモート接続の確立方法または Sun ILOM リモートコンソールの使用方法については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。</p>

インストールブートメディア

サーバーへのオペレーティングシステムのインストールは、ローカルまたはリモートのインストールメディアソースをブートして開始できます。表 1-4 に、サポートされるメディアソースと、各ソースの設定の要件を示します。

表 1-4 OS インストールを実行するためのブートメディアオプション

インストールメディア	説明	設定の要件
ローカルブートメディア	<p>ローカルブートメディアには、サーバー上の組み込み型ストレージデバイスまたはサーバーに接続された外部ストレージデバイスが必要です。サポートされる OS ローカルブートメディアソースには次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM インストールメディアおよびフロッピーデバイスドライブメディア (該当する場合) 	<p>ローカルブートメディアを使用してインストールを実行するには、次のステップを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サーバーに組み込み型のストレージデバイスがない場合は、ドングルケーブルで USB コネクタを使用して、適切なストレージデバイスをサーバーモジュールのフロントパネルに接続します。 2. ローカルデバイスをサーバーに接続する方法については、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Installation Guide』の「Attaching Devices to the Server」を参照してください。

表 1-4 OS インストールを実行するためのブートメディアオプション (続き)

インストールメディア	説明	設定の要件
リモートブートメディア	<p>リモートメディアでは、ネットワーク上でインストールをブートする必要があります。ネットワークインストールは、リダイレクトされたブートストレージデバイスか、PXE (Pre-Boot eXecution environment) を使用してネットワーク上でインストールをエクスポートする別のネットワークシステムから開始できます。</p> <p>サポートされる OS リモートメディアソースには次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM インストールメディアおよびフロッピーデバイスドライブメディア (該当する場合) • CD/DVD-ROM ISO インストールイメージおよびフロッピー ISO デバイスドライブメディア (該当する場合) • 自動インストールイメージ (PXE ブートが必要です) 	<p>リモートストレージデバイスからブートメディアをリダイレクトするには、次のステップを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブートメディアを、次のようなストレージデバイスに挿入します。 <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM の場合、組み込み型または外部の CD/DVD-ROM ドライブにメディアを挿入します。 • CD/DVD-ROM ISO イメージの場合、ISO イメージがネットワーク共有された場所ですぐに利用できることを確認します。 • デバイスドライバフロッピー ISO イメージの場合、ISO イメージ (該当する場合) がネットワーク共有された場所または USB ドライブ上ですぐに利用できることを確認します。 • デバイスドライバフロッピーメディア (該当する場合) の場合、フロッピーメディアを外部フロッピードライブに挿入します。 2. サーバー ILOM SP への Web ベースのクライアント接続を確立し、Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションを起動します。 詳細については、表 1-3 の Web ベースのクライアント接続の設定の要件を参照してください。 3. Sun ILOM リモートコンソールアプリケーションの「デバイス」メニューで、次のようにブートメディアの場所を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • CD/DVD-ROM ブートメディアでは、「CD-ROM」を選択します。 • CD/DVD-ROM ISO イメージブートメディアでは、「CD-ROM Image」を選択します。 • フロッピーデバイスドライブブートメディア (該当する場合) では、「Floppy」を選択します。 • フロッピーイメージデバイスドライブブートメディア (該当する場合) では、「Floppy Image」を選択します。 <p>Sun ILOM リモートコンソールの詳細については、『Sun Integrated Lights Out Manager 2.0 ユーザーズガイド』を参照してください。</p>

表 1-4 OS インストールを実行するためのブートメディアオプション (続き)

インストールメディア	説明	設定の要件
リモートブートメディア (続き)	<p>注 - 自動インストールイメージを使用すると、複数のサーバーで OS のインストールを実行できます。自動イメージを使用すると、複数のシステム間で設定を統一できます。</p> <p>自動インストールでは、PXE (Pre-boot eXecution Environment) テクノロジーを使用して、クライアントはオペレーティングシステムなしでオペレーティングシステムのインストールを実行する自動インストールサーバーにリモートでブートできます。</p>	<p>PXE を使用してインストールを実行するには、次のステップを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PXE ブートを使用して、インストールをエクスポートするようにネットワークサーバーを設定します。 2. OS インストールメディアを PXE ブートで利用できるようにします。 <p>自動 OS インストールイメージを使用する場合は、次のような自動 OS インストールイメージを作成する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Solaris JumpStart イメージ • RHEL KickStart イメージ • SLES AutoYaST イメージ • Windows RIS または WDS イメージ <p>インストール設定プロセスの自動化の詳細については、オペレーティングシステムベンダーのドキュメントを参照してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. インストールメディアをブートするには、一時起動デバイスとして PXE ブートインタフェースカードを選択します。詳細については、本書の後半で説明する、該当する PXE ベースのオペレーティングシステムのインストール手順を参照してください。

インストールターゲット

表 1-5 に、オペレーティングシステムのインストールに使用できる、サポートされるインストールターゲットを示します。

表 1-5 OS インストールのインストールターゲット

インストールターゲット	説明	設定の要件	サポートされる OS
ローカルハードディスクドライブ (Hard Disk Drive, HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive, SSD)	オペレーティングシステムは、サーバーモジュールに設置された任意の HDD または SSD を選択してインストールできます。	<ul style="list-style-type: none"> • サーバーに HDD または SSD が適切に設置され、電源が投入されていることを確認してください。 <p>HDD または SSD の設置と電源投入については、サーバーに付属のインストールガイドまたはサービスマニュアルを参照してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 表 1-1 に一覧表示されるすべてのオペレーティングシステム

表 1-5 OS インストールのインストールターゲット (続き)

インストールターゲット	説明	設定の要件	サポートされる OS
ファイバチャネル (Fibre Channel, FC) Storage Area Network (SAN) デバイス	ファイバチャネル PCIe ホストバスアダプタ (Host Bus Adapter, HBA) が付属したシャーシシステムの場合は、オペレーティングシステムを外部 FC ストレージデバイスにインストールするを選択できます。	<ul style="list-style-type: none"> FC PCIe HBA がシャーシに適切に設置され、稼働していることを確認してください。シャーシに HBA を設置する方法については、使用しているサーバーのサービスマニュアルを参照してください。 ホストでストレージを表示するには、SAN を設置および設定してください。手順については、FC HBA に付属のドキュメントを参照してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 表 1-1 に一覧表示されるすべてのオペレーティングシステム
コンパクトフラッシュカード	システムにオプションのコンパクトフラッシュカードが付属している場合は、コンパクトフラッシュカードに Linux または Solaris オペレーティングシステムをインストールするを選択できます。	<ul style="list-style-type: none"> コンパクトフラッシュカードオプションがサーバーに適切に設置されていることを確認してください。このオプションの設置の詳細については、サーバーに付属のインストールガイドまたはサービスマニュアルを参照してください。 	<ul style="list-style-type: none"> 表 1-1 に一覧表示されたすべての Linux および Solaris オペレーティングシステム

新規インストールの BIOS 設定の確認

ハードディスクドライブに新しくインストールするすべてのオペレーティングシステムについて、オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、次の BIOS 設定が適切に設定されていることを確認するようにしてください。

- システム時刻
- システム日付
- ブート順序

BIOS 設定ユーティリティでは、必要に応じて BIOS 設定を表示および編集するだけでなく、最適なデフォルト値を設定することもできます。(F2 により) BIOS 設定ユーティリティで行ったすべての変更は、次に変更するまで永続的なものであることに注意してください。

注 - 必要に応じて、BIOS 起動時に F8 を押して、一時起動デバイスを指定できます。一時起動デバイスの設定は、現在のシステムブートでのみ有効であることに注意してください。一時起動デバイスからシステムをブートしたあとは、(BIOS で) F2 により指定した常時起動デバイスの設定が有効になります。

作業を開始する前に

BIOS 設定ユーティリティにアクセスする前に、次の要件が満たされていることを確認してください。

- 電源が投入されたシステムシャーシにサーバーモジュールが適切に設置されていること。詳細については、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール設置マニュアル』を参照してください。
- サーバーにハードディスクドライブ (Hard Disk Drive、HDD) または半導体ドライブ (Solid State Drive、SSD) などのストレージドライブが搭載されていること。
- サーバーにストレージドライブが適切に設置されていること。詳細については、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール設置マニュアル』を参照してください。
- サーバーへのコンソール接続が確立されていること。詳細については、[6 ページの「コンソール出力」](#)を参照してください。


▼ 新規インストールの BIOS 設定の表示または編集

1. サーバーの電源をリセットします。

サーバーの電源をリセットするには、次のようにします。

- **ILOM Web インタフェース**で「Remote Control」->「Remote Power Control」を選択し、「Host action」ドロップダウンリストボックスで「Power Cycle」オプションを選択します。
- **ローカルサーバー**からは、サーバーモジュールのフロントパネルで電源ボタンを押して (約 1 秒)、サーバーモジュールの電源を切断します。その後、もう一度電源ボタンを押して、サーバーモジュールの電源を投入します。
サーバーの電源の投入または切断については、サーバーのサービスマニュアルを参照してください。
- **サーバーモジュール SP の ILOM CLI**からは、`reset /SYS` と入力します。
- **CMM の ILOM CLI**からは、`reset /CH/BLn/SYS` と入力します。
ここで、*n* はシャーシ内のサーバーモジュールのロット番号です。

BIOS 画面が表示されます。



```

www.ami.com
AMIBIOS (C) 2006 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 11/19/08 15:40:21 Ver: 08.00.15
Sun BIOS Revision: 07.01.30.00
Sun Fire X4170 Server CPU Power (TDP Limit) = 95 Watts
Product Serial Number:0000000000
CPU : Genuine Intel(R) CPU @ 0000 @ 2.67GHz
Speed : 2.66 GHz Count : 16

Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)
Press F12 if you want to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
Press F8 for BIOS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
MPI Operational Speed at : 6.46T/s
MC Firmware Revision: 2.0.2.9
initializing USB Controllers ..

(C) American Megatrends, Inc.
4-3047-009999-00101111-111908-TYLSMURG-36BD0630-Y2KC 6B36

```

2. BIOS 画面のプロンプトが表示されたら、F2 を押して BIOS 設定ユーティリティにアクセスします。

すぐに BIOS 設定ユーティリティが表示されます。



```

BIOS SETUP UTILITY
Main Advanced PCI Boot Security Chipset Exit

System Overview
-----
AMIBIOS
Build Date:02/25/09
ID :07.01.38.03

Processor
Intel(R) Xeon(R) CPU E5520 @ 2.27GHz
Speed :2266MHz
Count :16

System Memory
Size :4088MB

System Time [07:17:32]
System Date [Tue 03/10/2009]

▶ Serial Number Information

Use [ENTER], [TAB] or [SHIFT-TAB] to select a field.

Use [+] or [-] to configure system Time.

+ Select Screen
↑↓ Select Item
+- Change Field
Tab Select Field
F1 General Help
(CTRL+Q from remote kbd)
F10 Save and Exit
(CTRL+S from remote kbd)

v02.61 (C) Copyright 1985-2006, American Megatrends, Inc.

```


3. 出荷時のデフォルトが設定されていることを確認するには、次の手順を実行します。
 - a. F9 を押すと、最適な出荷時のデフォルト設定が自動的に読み込まれます。

「了解」を選択してこの操作を続行するか、「取消し」を選択してこの操作を取り消すかを確認するメッセージが表示されます。
 - b. メッセージで「了解」を強調表示して、Enter を押します。

BIOS 設定ユーティリティー画面が表示され、システム時刻フィールドの最初の値でカーソルが強調表示されます。
4. BIOS 設定ユーティリティーで次の手順を実行して、システムの時刻または日付に対応する値を編集します。
 - a. 変更する値を強調表示します。

上下の矢印キーを使用して、システムの時刻と日付の選択を変更します。
 - b. 強調表示されたフィールドの値を変更するには、次のキーを使用します。
 - プラス (+) を使用すると、現在表示されている値が増加します。
 - マイナス (-) を使用すると、現在表示されている値が減少します。
 - Enter を使用すると、カーソルが次の値フィールドに移動します。
5. ブート設定にアクセスするには、「ブート」メニューを選択します。

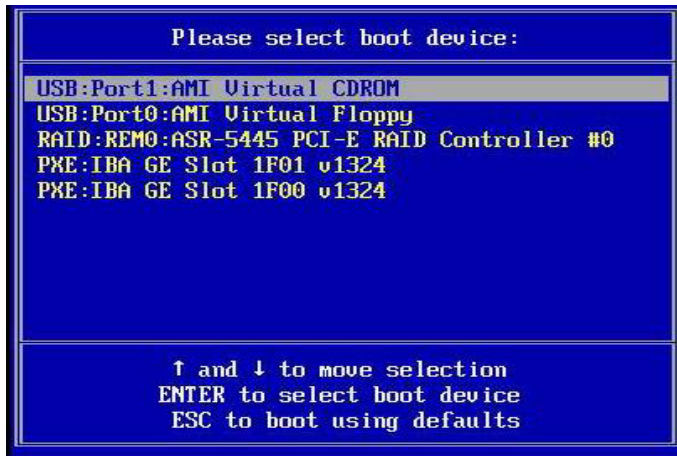


「Boot Settings」メニューが表示されます。

6. 「Boot Settings」メニューで、下矢印キーを使用して「Boot Device Priority」を選択して、Enter を押します。



「Boot Device Priority」メニューに既知の起動デバイスの順序が一覧表示されます。画面に一覧表示される起動デバイスの順序は、下のサンプル画面に表示されるデバイスの順序と異なる場合があることに注意してください。



リストの最初のデバイスは、ブートの優先順位がもっとも高いデバイスです。

7. 「Boot Device Priority」メニューで次の手順を実行して、リストの最初の起動デバイスエントリを編集します。
 - a. 上下の矢印キーを使用してリストの最初のエントリを選択し、Enter を押します。
タブが表示され、変更できるオプションが一覧表示されます。
 - b. タブで、上下の矢印キーを使用してデフォルトの常時起動デバイスを選択し、Enter を押します。
「ブート」メニューおよび「オプション」メニューに一覧表示されるデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、および製品 ID 文字列の形式です。

注 – 変更するデバイスエントリごとにステップ 7a および 7b を繰り返して、リストのその他のデバイスについてブートの順序を変更できます。

8. 変更を保存して BIOS 設定ユーティリティを終了するには、F10 を押します。

注 – Sun ILOM リモートコンソールを使用している場合、F10 はローカル OS にトラップされます。リモートコンソールの一番上で使用できる「キーボード」ドロップダウンメニューに一覧表示される F10 オプションを使用してください。

または、「終了」メニューで「保存する」を選択して変更を保存し、BIOS 設定ユーティリティを終了することもできます。

変更を保存して設定を終了するかどうかを確認するメッセージが表示されます。メッセージダイアログで「了解」を選択して、Enter を押します。

第2章

SUSE Linux Enterprise Server のインストール

この章では、x86 (64 ビット版) 用の SUSE Linux Enterprise Server 10 SP2 (またはそれ以降のリリース) をサーバーにインストールする方法について説明します。

注 – サーバーに SUSE Linux オペレーティングシステムをインストールする場合、Sun Installation Assistant (SIA) を使用することを強くお勧めします。SIA を使用すると、必要に応じて、デバイスドライバをインストールできます。SIA を使用してオペレーティングシステムをインストールする方法については、『Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド』(820-6352)で説明されている手順を参照してください。

注 – ストレージドライブ上に RAID セットを作成する場合、OS をインストールする前にドライブ上に RAID セットを作成することをお勧めします。詳細は、『Sun Disk Management Overview For x64 Sun Fire and Sun Blade Series Servers』(820-6350)を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- 16 ページの「SLES 10 インストールの作業マップ」
- 17 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した SLES10 のインストール」
- 20 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した SLES10 のインストール」
- 23 ページの「SLES 10 インストール後の作業」

SLES 10 インストールの作業マップ

表 2-1 を使用して、一連の作業として定義されているインストールプロセスを確認します。この表では、必須作業を示して説明します。また、各作業の実行手順へのリンクも示します。

表 2-1 SLES 10 インストールの作業マップ

手順	作業	説明	関連トピック
1	インストールの前提条件を確認します。	サーバーにオペレーティングシステムをインストールする場合に適用される要件がすべて満たされていることを確認します。	• 4 ページの「インストールの前提条件」
2	インストール方法を選択します。	使用しているインフラストラクチャーのニーズを満たすインストール方法を評価し、選択します。	• 6 ページの「インストール方法」
3	BIOS が出荷時のデフォルトに設定されていることを確認します。	オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、BIOS が出荷時のデフォルト設定に設定されていることを確認します。	• 10 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」
4	SLES のインストールメディアを収集します。	SLES OS の CD/DVD メディアおよびドキュメントは、Sun または Novell 社から購入できます。	SLES のメディアは、次のサイトでダウンロードまたは注文できます。 http://www.novell.com
5	SLES OS インストールを実行します。	この章のインストール手順では、インストールメディアのブート、ドライブのパーティション分割、および SLES インストールプログラムの起動に必要な初期の手順について説明します。 SLES のインストールについての詳細は、Novell 社の次のサイトにある SUSE Linux Enterprise Server の各種ドキュメントを参照してください。 http://www.novell.com/documentation/suse	• 17 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した SLES10 のインストール」 • 20 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した SLES10 のインストール」
6	SLES を登録し、自動更新を有効にします (推奨)。	最新バージョンの SLES OS が SLES インストールメディアに含まれていない場合、この章の手順に従って SLES オペレーティングシステムを更新します。	• 23 ページの「SLES 10 オペレーティングシステムの更新」
7	必要に応じて、OS のインストール後にドライバをインストールします。	使用しているシステムのハードウェアをサポートするのに必要なデバイスドライバが SLES オペレーティングシステムに含まれていない場合、追加のデバイスドライバのインストールが必要な場合があります。	• 25 ページの「追加のハードウェアをサポートするシステムデバイスドライバのインストール」

ローカルまたは遠隔メディアを使用した SLES10 のインストール

次の手順では、SUSE Linux Enterprise Server 10 (SLES10) オペレーティングシステムをローカルまたは遠隔メディアからブートする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから SLES 10 のインストールメディアをブートすることを前提とします。

- SLES10-SP2 以降のリリースの CD または DVD セット (内部または外部の CD/DVD)
- SLES10-SP2 以降のリリースの ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[20 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した SLES10 のインストール」](#) のブート手順を参照してください。

作業を開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を確認してください。

- このオペレーティングシステムのインストールに適用される前提条件がすべて満たされているようにしてください。これらの前提条件についての詳細は、[4 ページの表 1-2 「OS インストールの前提条件」](#) を参照してください。
- インストールを実行する前に、インストール方法 (例: コンソール、ブートメディア、インストールターゲット) を選択して確立しておくことをお勧めします。これらのセットアップ要件については、[6 ページの「インストール方法」](#) を参照してください。

次の手順では、インストールメディアのブートおよび SLES インストールプログラムの起動に必要な初期の手順について説明します。SLES10-SP2 のインストールについての詳細は、Novell 社の次のサイトにある SUSE Linux Enterprise Server の各種ドキュメントを参照してください。

<http://www.novell.com/documentation/suse>

この手順を完了したあとで、この章の後半で説明する、インストール後の必須作業を確認して実行するようにしてください。詳細は、[23 ページの「SLES 10 インストール後の作業」](#) を参照してください。

▼ ローカルまたは遠隔メディアを使用した SLES10 のインストール

1. インストールメディアでブートできる状態にする必要があります。
 - **Distribution CD/DVD の場合。** ローカルまたは遠隔の USB CD/DVD-ROM ドライブに SLES10 ブートディスク (CD #1 または DVD) を挿入します。
 - **ISO イメージの場合。** ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションでブートディスクイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「Device」メニュー --> 「CD-ROM Image」)。

インストールメディアをセットアップする方法についての詳細は、[7 ページの表 1-4 「OS インストールを実行するためのブートメディアオプション」](#) を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

たとえば、次のように入力します。

 - **ILOM Web インタフェース**で「Remote Control」--> 「Remote Power Control」を選択し、「Host action」ドロップダウンリストボックスで「Power Cycle」オプションを選択します。
 - **ローカルサーバーの前面パネルの電源ボタン**を (約 1 秒間) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
 - **サーバー SP の ILOM CLI**で、次のように入力します。`reset /SYS`
 - **CMM の ILOM CLI**で、次のように入力します。`reset /CH/BLn/SYS`
n は、シャーシ内にあるサーバーモジュールのスロット番号です。

BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。メッセージが短時間画面に表示される間、メッセージを注意深く観察します。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、SLES インストールの一時的な起動デバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。
4. 「Please Select Boot Device」メニューで、一次起動デバイスとして外部または仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。

「Please Select Boot Device」メニューに一覧表示されているデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、製品 ID 文字列の形式になっています。数秒後、SUSE の最初のブート画面が表示されます。

- 最初の SUSE ブートインストール画面で、Tab キーを使用して 2 番目のオプション「インストール (Installation)」を選択し、Enter キーを押します。

このオプションを使用すると、ユーザーによる通常の対話式インストールプロセスに進みます。

「言語の選択 (Language)」画面が表示されます。

注 – 「言語の選択 (Language)」画面が表示されるまで数分かかる場合があります。

- 「言語の選択 (Language)」画面で、適切な言語オプションを選択して、「次へ (Next)」をクリックします。

「ライセンス契約 (License Agreement)」画面が表示されます。
- 「SUSE Linux Novell ライセンス契約 (SUSE Linux Novell License Agreement)」画面で、「同意する (Accept)」をクリックします。

SUSE YaST インストールプログラムが初期化されます。YaST によるグラフィック形式のインストール画面が表示されます。

AutoYaST ファイルの設定によっては、「YaST 言語選択 (YaST Language Selection)」画面が表示されることもあります。
- 「YaST 言語選択 (YaST Language Selection)」画面が表示された場合、使用する言語を指定します。

AutoYaST ファイルの設定によっては、「YaST インストールモード (YaST Installation Mode)」画面が表示されることもあります。
- 「YaST インストールモード (YaST Installation Mode)」画面が表示された場合、「新規インストール (New Installation)」を選択し、「OK」をクリックして続行します。

システムのハードウェアが検出されます。「YaST インストールの設定 (YaST Installation Settings)」画面が表示されます。
- 「YaST インストールの設定 (YaST Installation Settings)」画面で、次の操作を実行します。
 - 「パーティション分割 (Partitioning)」オプションをクリックします。
 - 「カスタムパーティションの作成 (Create Custom Partition)」を選択し、「OK」をクリックします。
 - 必要に応じて、ディスクをパーティションに分割します。

詳細は、YaST パーティション分割の手順を参照してください。

注 – Solaris OS がディスクにプリインストールされている場合は、ディスクをパーティションに分割して Solaris を削除するか、Solaris を維持してディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることもできます。

11. すべての SLES OS ファイルがインストールされ、システムが再起動されるまで基本的なインストール設定を続けます。
12. 基本的なインストール設定を完了したら、YaST のドキュメントを参照して、次に示す作業を行います。
 - a. アカウントのパスワードを作成します。
 - b. インターネットアクセスおよびネットワーク設定を設定し、テストします。
 - c. OS を登録し、オペレーティングシステムで使用可能な更新をダウンロードします。

または、23 ページの「SLES 10 オペレーティングシステムの更新」を参照して、SLES 10 OS を手動で更新します。
13. この章の後半で説明する、インストール後の作業を確認し、必要に応じて実行します。

23 ページの「SLES 10 インストール後の作業」を参照してください。

PXE ネットワーク環境を使用した SLES10 のインストール

この節では、PXE ネットワーク環境から SLES10 をブートする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提とします。

- SLES10-SP2 以降のリリースの CD または DVD セット (内部または外部の CD/DVD)
- SLES10-SP2 以降のリリースの ISO DVD イメージまたは AutoYaST イメージ (ネットワークリポジトリ)

AutoYaST を使用すると、SLES オペレーティングシステムを複数のシステムにインストールできます。AutoYaST を使用した自動インストールを準備する方法については、次のサイトにある Novell SUSE のドキュメントを参照してください。

<http://www.novell.com/documentation/suse>

作業を開始する前に

PXE ネットワーク起動環境から SLES10 インストールを実行する前に、次の要件を満たしてください。

- AutoYaST を使用してインストールを行う場合、次の操作を実行します。
 - AutoYast プロファイルを作成します。
- SUSE Linux Enterprise 10 のドキュメントにある AutoYaST のインストール手順に従ってください。
- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作を実行します。
 - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
 - TFTP サーバーで PXE ブートに必要なファイルを設定します。
 - PXE 設定からブートするように Sun Blade X6270 サーバーモジュール モジュールの MAC ネットワークポートアドレスを設定します。
 - 動的ホスト構成プロトコル (Dynamic Host Configuration Protocol、DHCP) を設定します。

SUSE Linux Enterprise 10 のドキュメントにある、ネットワーク経由で SUSE メディアをブートするための設定手順に従ってください。

この手順を完了したあとで、[23 ページの「SLES 10 インストール後の作業」](#)の作業を実行することが必要な場合があります。

▼ ネットワーク PXE ブートを使用した SLES10 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が適切に設定され、SLES インストールメディアで PXE ブートできる状態であることを確認します。
2. サーバーの電源をリセットします。
たとえば、次のように入力します。
 - ILOM Web インタフェースで「Remote Control」->「Remote Power Control」を選択し、「Host action」ドロップダウンリストボックスで「Power Cycle」オプションを選択します。
 - ローカルサーバーの前面パネルの電源ボタンを (約 1 秒間) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
 - サーバー SP の ILOM CLI で、次のように入力します。`reset /SYS`
 - CMM の ILOM CLI で、次のように入力します。`reset /CH/BLn/SYS`
n は、シャーシ内にあるサーバーモジュールのスロット番号です。BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、次に示す手順では集中する必要があります。メッセージが短時間画面に表示される間、メッセージを注意深く観察します。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. F8 キーを押して、一時的な起動デバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示され、使用可能な起動デバイスが一覧表示されます。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、ネットワークインストールサーバーと通信するように設定された PXE インストール起動デバイス (物理ポート) を選択します。

ネットワークブートローダーがロードされ、起動プロンプトが表示されます。5 秒間待つと、インストールカーネルの読み込みが開始されます。

「SUSE Linux Novell ライセンス契約 (SUSE Linux Novell License Agreement)」画面が表示されます。

5. 「SUSE Linux Novell License Agreement (SUSE Linux Novell ライセンス契約)」画面で、「Accept (同意する)」をクリックします。

SUSE YaST インストールプログラムが初期化されます。YaST によるグラフィック形式のインストール画面が表示されます。

AutoYaST ファイルの設定によっては、「YaST 言語選択 (YaST Language Selection)」画面が表示されることもあります。

6. 「YaST 言語選択 (YaST Language Selection)」画面が表示された場合、使用する言語を指定します。

AutoYaST ファイルの設定によっては、「YaST インストールモード (YaST Installation Mode)」画面が表示されることもあります。

7. 「YaST Installation Mode (YaST インストールモード)」画面が表示された場合、「New Installation (新規インストール)」を選択し、「OK」をクリックして続行します。

システムのハードウェアが検出されます。「YaST インストールの設定 (YaST Installation Settings)」画面が表示されます。

8. 「YaST インストールの設定 (YaST Installation Settings)」画面で、次の操作を実行します。

a. 「パーティション分割 (Partitioning)」オプションをクリックします。

b. 「カスタムパーティションの作成 (Create Custom Partition)」を選択し、「OK」をクリックします。

c. 必要に応じて、ディスクをパーティションに分割します。

詳細は、YaST パーティション分割の手順を参照してください。

注 – Solaris OS がディスクにプリインストールされている場合は、ディスクをパーティションに分割して Solaris を削除するか、Solaris を維持してディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることもできます。

9. すべての SLES OS ファイルがインストールされ、システムが再起動されるまで基本的なインストール設定を続けます。
10. 基本的なインストール設定を完了したら、YaST のドキュメントを参照して、次に示す作業を行います。
 - a. アカウントのパスワードを作成します。
 - b. インターネットアクセスおよびネットワーク設定を設定し、テストします。
 - c. OS を登録し、オペレーティングシステムで使用可能な更新をダウンロードします。

または、[23 ページの「SLES 10 オペレーティングシステムの更新」](#)を参照して、SLES OS を手動で更新します。
11. この章の後半で説明する、インストール後の作業を確認し、必要に応じて実行します。

[23 ページの「SLES 10 インストール後の作業」](#)を参照してください。

SLES 10 インストール後の作業

SLES 10 インストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、必要に応じて、使用しているシステムに該当する作業を実行します。

- [23 ページの「SLES 10 オペレーティングシステムの更新」](#)
- [25 ページの「追加のハードウェアをサポートするシステムデバイスドライバのインストール」](#)
- [25 ページの「Wake On LAN のサポートを有効にする」](#)

SLES 10 オペレーティングシステムの更新

SLES 10 OS のインストールメディアには、最新バージョンの SLES 10 OS が含まれていない場合があります。次の手順では、サーバー上の SLES 10 OS を更新する方法について説明します。

▼ SLES 10 オペレーティングシステムの更新

1. スーパーユーザーとしてログインします。
2. 次のコマンドを入力して、YaST オンラインアップデートを実行します。

```
# you
```

YaST は、テキストモードとグラフィカルモードの両方で動作します。ここでの指示は、両方に適用されます。

3. サーバーがネットワークファイアウォールに保護されていて、インターネットにアクセスするためにプロキシサーバーを使用する必要がある場合には、まず正しいプロキシ情報で YaST を設定します。
 - a. 左にある「ネットワークサービス (Network Services)」タブを選択してから、右側の「プロキシ (Proxy)」画面を選択します。HTTP フィールドと HTTPS フィールドの両方に、正しいプロキシ URL を入力します。

注 – ネットワーク HTTP プロキシを介してオンラインアップデートサービスが正常に機能するためには、次の追加設定ステップを実行します。

- b. YaST コーティリティーを終了して、以下のコマンドを実行します。

```
run set-press proxy-url <Proxy_URL>
```

Proxy_URL は、プロキシサーバーの完全修飾 URL です
(例: *http://proxy.yourdomain:3128/*)。

- c. コマンドの実行の成功後に、YaST を再度起動します。

4. Novell Customer Center に登録します。

注 – Novell Customer Center のユーザー名とパスワード、および SLES 10 製品のアクティベーションコードが必要です。

- a. 左側にある「ソフトウェア (Software)」タブを選択します。
 - b. 「Novell Customer Center の設定 (Novell Customer Center Configuration)」を選択し、指示に従います。
5. 登録後、「オンラインアップデート (Online Update)」タブを選択して、ソフトウェアのアップデートを実行します。

追加のハードウェアをサポートするシステムデバイスドライバのインストール

表 2-2 では、使用しているシステムにインストールできるシステムデバイスドライバを示します。使用中のシステムに現在インストールが必要なドライバがあるかどうかを、この表で確認してください。

表 2-2 追加のハードウェアをサポートするデバイスドライバ

ハードウェアデバイス	必要なデバイスドライバ	指示書	ドライバをダウンロードできるサイト
InfiniBand 4x (CX4) PCIe ExpressModule (Mellanox) X1288A-Z	Mellanox 社: Infiniband ドライバ	インストール手順については、Readme ファイルを参照してください。Readme ファイルは、Mellanox 社のドライバダウンロードサイトで入手できます。	http://www.mellanox.com/content/pages.php?pg=products_dyn&product_family=26&menu_section=34
Sun Dual Port DDR IB Host Channel Adapter PCI-e ExpressModule X4216A-Z	Mellanox 社: Infiniband ドライバ		
Sun IB-HCA Dual Port 4x DDR PCI-E, ExpressModule	Mellanox 社: Infiniband ドライバ		

Wake On LAN のサポートを有効にする

オペレーティングシステムをインストールしたあとで、BIOS 設定ユーティリティの Wake On LAN (WOL) オプションを有効にすることをお勧めします。この機能を使用すると、ネットワーク上の別の場所からサーバーの電源を投入できます。WOL を有効にするための要件の詳細は、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Module Service Manual』の「Wake On LAN – Remote Power On」を参照してください。

第3章

Red Hat Enterprise Linux のインストール

この章では、次に示す Red Hat Enterprise Linux のインストールについて説明します。

- Red Hat Enterprise Linux v.4.7 以降のリリース、x86 (32 ビット版および 64 ビット版) 用
- Red Hat Enterprise Linux v.5.3 以降のリリース、x86 (64 ビット版) 用

注 – サーバーに Red Hat Linux オペレーティングシステムをインストールする場合、Sun Installation Assistant (SIA) を使用することを強くお勧めします。SIA を使用すると、必要に応じて、デバイスドライバをインストールできます。SIA を使用してオペレーティングシステムをインストールする方法については、『Windows および Linux 用 Sun Installation Assistant ユーザーズガイド』(820-6352)で説明されている手順を参照してください。

注 – ストレージドライブ上に RAID セットを作成する場合、OS をインストールする前にドライブ上に RAID セットを作成することをお勧めします。詳細は、『Sun Disk Management Overview For x64 Sun Fire and Sun Blade Series Servers』(820-6350)を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- [28 ページの「RHEL のインストールの作業マップ」](#)
- [29 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール」](#)
- [37 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール」](#)
- [39 ページの「RHEL インストール後の作業」](#)

RHEL のインストールの作業マップ

表 3-1 を使用して、一連の作業として定義されているインストールプロセスを確認します。この表では、必須作業を示して説明します。また、各作業の実行手順へのリンクも示します。

表 3-1 RHEL のインストールの作業マップ

手順	作業	説明	関連トピック
1	インストールの前提条件を確認します。	サーバーにオペレーティングシステムをインストールする場合に適用される要件がすべて満たされていることを確認します。	• 4 ページの「インストールの前提条件」
2	インストール方法を選択します。	使用しているインフラストラクチャーのニーズを満たすインストール方法を評価し、選択します。	• 6 ページの「インストール方法」
3	BIOS が出荷時のデフォルトに設定されていることを確認します。	オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、BIOS が出荷時のデフォルト設定に設定されていることを確認します。	• 10 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」
4	RHEL のインストールメディアを収集します。	RHEL OS CD/DVD メディアおよびドキュメントは、Sun または Red Hat から購入できます。	RHEL のメディアは、次のサイトでダウンロードまたは注文できます。 http://www.redhat.com

表 3-1 RHEL のインストールの作業マップ (続き)

手順	作業	説明	関連トピック
5	RHEL OS インストールを実行します。	この章のインストール手順では、インストールメディアのブート、ドライブのパーティション分割、および RHEL インストールプログラムの起動に必要な初期の手順について説明します。 RHEL のインストールについての詳細は、 http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-5-manual/ja-JP/index.html にある RHEL の各種ドキュメントを参照しておくことをお勧めします。	<ul style="list-style-type: none"> • 29 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール」 • 37 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール」
6	RHEL を登録し、自動更新を有効にします (推奨)。	RHEL をインストールしたあと、使用しているシステムを Red Hat に登録してサブスクリプションを有効にし、ソフトウェアの自動更新を取得することをお勧めします。	<ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux の各種ドキュメントは次のサイトにあります。 http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/RHEL-5-manual/ja-JP/index.html
7	必要に応じて、OS のインストール後にドライバをインストールします。	使用しているシステムをサポートするのに必要なデバイスドライバが RHEL オペレーティングシステムに含まれていない場合、追加のデバイスドライバをインストールが必要な場合があります。	<ul style="list-style-type: none"> • 39 ページの「追加のハードウェアをサポートするシステムデバイスドライバのインストール」

ローカルまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール

次の手順では、RHEL4 または RHEL5 オペレーティングシステムのインストールをローカルまたは遠隔メディアからブートする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースから RHEL インストールメディアをブートすることを前提とします。

- RHEL4 または RHEL5 の CD または DVD セット (内部または外部の CD/DVD)
- RHEL4 または RHEL5 の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、37 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール」の手順を参照してください。

注 – RHEL4 CD を Sun から取得した場合、インストールの完了後すぐに RHEL4 オペレーティングシステムを Update 7 にアップグレードしなければならないこともあります。

ローカルまたは遠隔メディアから RHEL OS をインストールする場合、次の手順を参照してください。

- 31 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 のインストール」
- 34 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した RHEL5 のインストール」

作業を開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を確認してください。

- オペレーティングシステムのインストールに適用される前提条件がすべて満たされているようにしてください。これらの前提条件についての詳細は、4 ページの表 1-2 「OS インストールの前提条件」を参照してください。
- インストールを実行する前に、インストール方法 (例: コンソール、ブートメディア、インストールターゲット) を選択して確立しておくことをお勧めします。これらのセットアップ要件については、6 ページの「インストール方法」を参照してください。

次の手順では、インストールメディアのブートおよびドライブのパーティション分割に必要な初期の手順について説明します。RHEL のインストールについての詳細は、次のサイトにある RHEL の各種ドキュメントを参照してください。

<http://www.redhat.com/docs/manuals/enterprise/>

この手順を完了したあとで、この章の後半で説明する、インストール後の必須作業を確認して実行するようにしてください。詳細は、39 ページの「RHEL インストール後の作業」を参照してください。

▼ ローカルまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 のインストール

1. インストールメディアでブートできる状態にする必要があります。

次に例を示します。

- **Distribution CD/DVD の場合。** ローカルまたは遠隔の USB CD/DVD-ROM ドライブに Red Hat 4.0 配布メディアブートディスク (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
- **ISO イメージの場合。** ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションでブートディスクイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「Device」メニュー --> 「CD-ROM Image」)。

インストールメディアをセットアップする方法についての詳細は、[7 ページの表 1-4 「OS インストールを実行するためのブートメディアオプション」](#) を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

たとえば、次のように入力します。

- **ILOM Web インタフェース**で「リモート制御 (Remote Control)」 --> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」を選択し、「ホストアクション (Host action)」ドロップダウンリストボックスで「電源サイクル (Power Cycle)」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーの前面パネルの電源ボタン**を (約 1 秒間) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
- **サーバー SP の ILOM CLI**で、次のように入力します。**reset /SYS**
- **CMM の ILOM CLI**で、次のように入力します。**reset /CH/BLn/SYS**
n は、シャーシ内にあるサーバーモジュールのスロット番号です。

BIOS 画面が表示されます。

注 – 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。メッセージが短時間画面に表示される間、メッセージを注意深く観察します。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、RHEL インストールの一時的な起動デバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、一次起動デバイスとして外部または仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。

「Please Select Boot Device」メニューに一覧表示されているデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、製品 ID 文字列の形式になっています。

数秒後に、Red Hat インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分には、手順、ファンクションキー、および起動プロンプトが表示されます。

5. Red Hat Enterprise Linux のスプラッシュ画面で、Enter キーを押して通常の対話式インストールを続行します。

または、テキストモードで、次のコマンドを入力します。

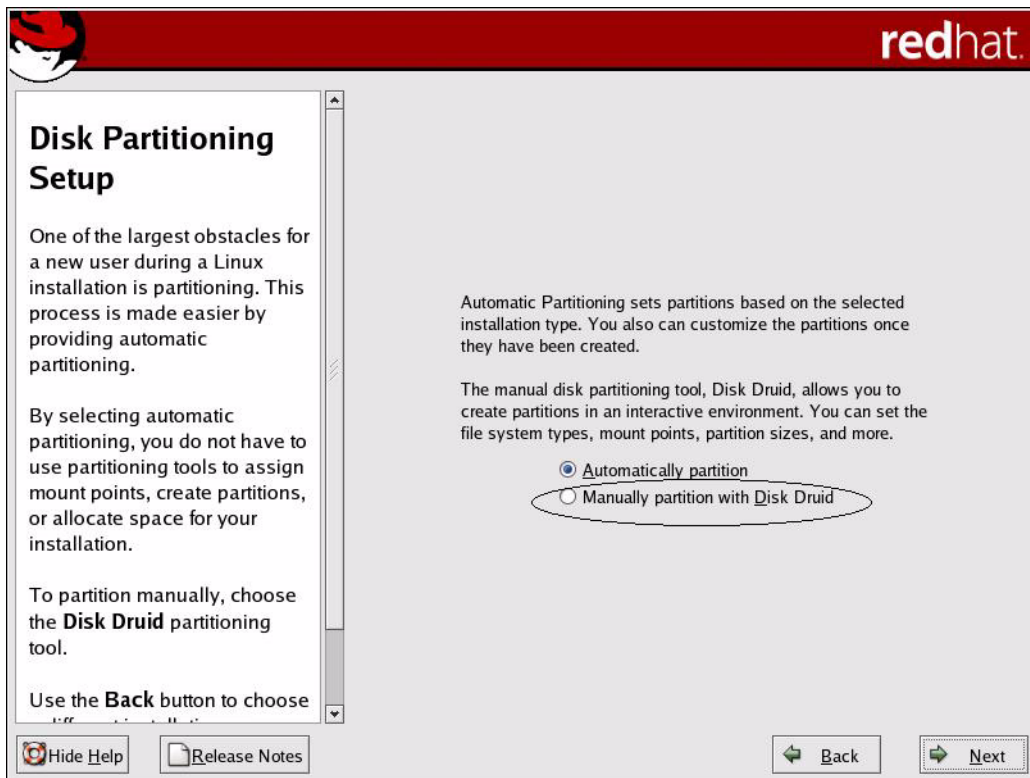
```
boot: linux text
```

6. 「CD メディアのテスト (Testing CD Media)」画面で Tab キーを押し、「スキップ (Skip)」を選択して Enter キーを押します。

注 – インストールの初期セットアップで問題が発生した場合は、「OK」を選択してインストール CD メディアをテストしなければならないこともあります。

Anaconda (Red Hat Enterprise Linux システムインストーラ) を実行していることを示すメッセージが表示されます。数秒後、「ようこそ (Welcome)」画面を示す Red Hat のスプラッシュ画面が表示されます。

7. Red Hat の「ようこそ (Welcome)」画面で、「次へ (Next)」を押してインストールを続行します。
「言語の選択 (Language)」画面が表示されます。
8. 「言語の選択 (Language)」画面で、適切な言語を選択して、「次へ (Next)」をクリックします。
「キーボード設定 (Keyboard Configuration)」画面が表示されます。
9. 「キーボード設定 (Keyboard Configuration)」画面で、適切なキーボード設定を選択してから、「次へ (Next)」をクリックします。
10. 「ディスクパーティションの設定 (Disk Partitioning Setup)」画面が表示されたら、次の手順に従います。
 - a. 「Disk Druid を使用して手動パーティション設定 (Manually partition with Disk Druid)」オプションを選択します。



- b. Red Hat のディスクパーティション画面に表示される手順を参照して、必要に応じてディスクをパーティションに分割します。

注 – Solaris OS がディスクにプリインストールされている場合は、ディスクをパーティションに分割して Solaris を削除するか、Solaris を維持してディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることもできます。

11. 画面に表示される指示および Red Hat のドキュメントに従って、基本的な Red Hat インストールのセットアップを続けます。
12. 基本的な Red Hat インストールのセットアップを完了したら、次に示すインストール後の作業を実行します。
 - a. 自動更新用にシステムを設定します。
詳細は、Red Hat のドキュメントを参照してください。

- b. 必要に応じて、RHEL4.7 (またはそれ以降のリリース) の最新の訂正およびバグの修正をダウンロードし、インストールします。
詳細は、Red Hat のドキュメントを参照してください。
- c. この章の後半で説明する、インストール後の作業を確認し、必要に応じて実行します。
[39 ページの「RHEL インストール後の作業」](#) を参照してください。

▼ ローカルまたは遠隔メディアを使用した RHEL5 のインストール

1. インストールメディアでブートできる状態にする必要があります。
たとえば、次のように入力します。
 - **Distribution CD/DVD の場合。** ローカルまたは遠隔の USB CD/DVD-ROM ドライブに Red Hat 5.0 配布メディアブートディスク (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
 - **ISO イメージの場合。** ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションでブートディスクイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「Device」メニュー --> 「CD-ROM Image」)。インストールメディアをセットアップする方法についての詳細は、[7 ページの表 1-4「OS インストールを実行するためのブートメディアオプション」](#) を参照してください。
2. サーバーの電源をリセットします。
たとえば、次のように入力します。
 - **ILOM Web インタフェース**で「Remote Control」 --> 「Remote Power Control」を選択し、「Host action」ドロップダウンリストボックスで「Power Cycle」オプションを選択します。
 - **ローカルサーバーの前面パネルの電源ボタン**を (約 1 秒間) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
 - **サーバー SP の ILOM CLI**で、次のように入力します。`reset /SYS`
 - **CMM の ILOM CLI**で、次のように入力します。`reset /CH/BLn/SYS`
n は、シャーシ内にあるサーバーモジュールのスロット番号です。BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。メッセージが短時間画面に表示される間、メッセージを注意深く観察します。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、RHEL インストールの一時的な起動デバイスを指定します。
「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。
4. 「Please Select Boot Device」メニューで、一次起動デバイスとして外部または仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。
「Please Select Boot Device」メニューに表示されているデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、製品 ID 文字列の形式になっています。
数秒後に、RHEL5 インストールのスプラッシュ画面が表示されます。スプラッシュ画面の下半分には、手順、ファンクションキー、および起動プロンプトが表示されます。
5. Red Hat Enterprise Linux のスプラッシュ画面で、Enter キーを押して通常の対話式インストールを続行します。
または、テキストモードで、次のコマンドを入力します。

```
boot: linux text
```
6. 「言語の選択 (Language)」画面で、適切な言語を選択して、「OK」をクリックします。
「Keyboard Type (キーボードタイプ)」画面が表示されます。
7. 「キーボードタイプ (Keyboard Type)」画面で、適切なキーボード設定を選択してから、「OK」をクリックします。
「インストール方法 (Installation Method)」画面が表示されます。
8. 「インストール方法 (Installation Method)」画面で適切なインストール方法 (「ローカル CDROM (Local CDROM)」または「NFS イメージ (NFS Image)」) を選択し、「OK」をクリックします。
「CD を検出しました (CD Found)」画面が表示されます。
9. 「CD を検出しました (CD Found)」画面で、「スキップ (Skip)」をクリックします。
「Red Hat Enterprise Linux 5」画面が表示されます。
10. 「Red Hat Enterprise Linux 5」画面で、「次へ (Next)」をクリックします。
「インストール番号 (Installation Number)」ダイアログが表示されます。
11. 「インストール番号 (Installation Number)」ダイアログで、「インストール番号」を入力するか、「インストール番号の入力を省略する (Skip entering installation number)」をクリックし、「OK」をクリックします。
「ディスクパーティションの設定 (Disk Partition Setup)」画面が表示されます。
12. 「ディスクパーティションの設定 (Disk Partition Setup)」画面で、次の操作を行います。

- a. 「選択したドライブの Linux パーティションを削除してデフォルトレイアウトを作成する (Remove Linux partition on selected drives and create default layout)」のオプションを選択するか、「カスタムレイアウトを作成する (Create custom layout)」オプションを使用してディスクを手動でパーティションに分割します。



- b. Red Hat のディスクパーティション画面に表示される手順を参照して、必要に応じてディスクをパーティションに分割します。

注 – Solaris OS がディスクにプリインストールされている場合は、ディスクをパーティションに分割して Solaris を削除するか、Solaris を維持してディスクをパーティションに分割し、デュアルブートオペレーティングシステムをサポートすることもできます。

13. 画面に表示される指示および Red Hat のドキュメントに従って、基本的な Red Hat インストールのセットアップを続けます。
14. 基本的な Red Hat インストールのセットアップを完了したあとで、次に示すインストール後の作業を実行します。
 - a. 自動更新用にシステムを設定します。
詳細は、Red Hat のドキュメントを参照してください。

- b. 必要に応じて、RHEL5.3 (またはそれ以降のリリース) の最新の訂正およびバグの修正をダウンロードし、インストールします。
詳細は、Red Hat のドキュメントを参照してください。
- c. この章の後半で説明する、インストール後の作業を確認し、必要に応じて実行します。
[39 ページの「RHEL インストール後の作業」](#) を参照してください。

PXE ネットワーク環境を使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール

この節では、PXE ネットワーク環境から RHEL4 または RHEL5 をブートする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提とします。

- RHEL4 または RHEL5 の CD または DVD セット (内部または外部の CD/DVD)
- RHEL4 または RHEL5 の ISO DVD イメージまたは KickStart イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – KickStart は、Red Hat の自動インストール方法です。この方法では、システム管理者は一般的な Red Hat Linux インストールで通常入力する必要のある、一部またはすべてのインストールおよび構成パラメータの設定値を含む単一のイメージを作成できます。通常、KickStart イメージは 1 つのネットワークサーバー上に配置され、インストール時に複数のシステムによって読み取られます。

作業を開始する前に

RHEL PXE インストールを実行する前に、次の要件を満たしてください。

- KickStart イメージを使用してインストールを行う場合、次の操作を実行します。
 - KickStart ファイルを作成します。
 - KickStart ファイルを含むブートメディアを作成するか、KickStart ファイルをネットワーク上で利用できるようにします。

『Red Hat Enterprise Linux 4: Administration Guide』

(<http://www.redhat.com/docs>) の KickStart のインストール手順に従ってください。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の操作を実行します。
 - インストールツリーをエクスポートするようにネットワーク (NFS、FTP、HTTP) サーバーを構成します。
 - TFTP サーバーで PXE ブートに必要なファイルを設定します。
 - PXE 設定からブートするように Sun Blade X6270 サーバーモジュールの MAC ネットワークポートアドレスを設定します。
 - 動的ホスト構成プロトコル (Dynamic Host Configuration Protocol、DHCP) を設定します。

『Red Hat Enterprise Linux 4: Administration Guide』

(<http://www.redhat.com/docs>) の PXE ネットワークのインストール手順に従ってください。

▼ ネットワーク PXE ブート使用した RHEL4 または RHEL5 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が適切に設定され、RHEL インストールメディアで PXE ブートできる状態であることを確認します。
2. サーバーの電源をリセットします。
たとえば、次のように入力します。
 - **ILOM Web インタフェース**で「Remote Control」-->「Remote Power Control」を選択し、「Host action」ドロップダウンリストボックスで「Power Cycle」オプションを選択します。
 - **ローカルサーバーの前面パネルの電源ボタン**を (約 1 秒間) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
 - **サーバー SP の ILOM CLI**で、次のように入力します。`reset /SYS`
 - **CMM の ILOM CLI**で、次のように入力します。`reset /CH/BLn/SYS`
n は、シャーシ内にあるサーバーモジュールのスロット番号です。
BIOS 画面が表示されます。

注 – 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。メッセージが短時間画面に表示される間、メッセージを注意深く観察します。

3. F8 キーを押して、一時的な起動デバイスを指定します。
「Please Select Boot Device」メニューが表示され、使用可能な起動デバイスが一覧表示されます。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、PXE ネットワークインストールサーバーと通信するように設定されたネットワークポートを選択します。
ネットワークブートローダーがロードされ、起動プロンプトが表示されます。数秒後に、インストールカーネルのロードが開始されます。
5. RHEL インストールプログラムがブートされたら、次のいずれかの手順を参照してインストールを完了させます。
 - RHEL4 の場合は、[31 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した RHEL4 のインストール」](#) の手順の手順 5 を参照してください。
 - RHEL 5 の場合は、[34 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した RHEL5 のインストール」](#) の手順の手順 5 を参照してください。

RHEL インストール後の作業

RHEL インストールを完了して RHEL オペレーティングシステムを再起動したら、次に示すインストール後の作業を確認し、必要に応じて、使用しているシステムに該当する作業を実行するようにしてください。

- [39 ページの「追加のハードウェアをサポートするシステムデバイスドライバのインストール」](#)
- [40 ページの「Wake On LAN のサポートを有効にする」](#)

追加のハードウェアをサポートするシステムデバイスドライバのインストール

[表 3-2](#) では、使用しているシステムにインストールできるシステムデバイスドライバを示します。使用中のシステムに現在インストールが必要なドライバがあるかどうかを、この表で確認するようにしてください。

表 3-2 追加のハードウェアをサポートするデバイスドライバ

ハードウェアデバイス	必要なデバイスドライバ	指示書	ドライバをダウンロードできるサイト
InfiniBand 4x (CX4) PCIe ExpressModule (Mellanox) X1288A-Z	Mellanox 社: Infiniband ドライバ	インストール手順については、Readme ファイルを参照してください。Readme ファイルは、Mellanox 社のドライバダウンロードサイトで入手できます。	http://www.mellanox.com/content/pages.php?pg=products_dyn&product_family=26&menu_section=34
Sun Dual Port DDR IB Host Channel Adapter PCI-e ExpressModule X4216A-Z	Mellanox 社: Infiniband ドライバ		
Sun IB-HCA Dual Port 4x DDR PCI-E, ExpressModule	Mellanox 社: Infiniband ドライバ		

Wake On LAN のサポートを有効にする

オペレーティングシステムをインストールしたあとで、BIOS 設定ユーティリティの Wake On LAN (WOL) をオプションを有効にすることをお勧めします。この機能を使用すると、ネットワーク上の別の場所からサーバーの電源を投入できます。WOL を有効にするための要件の詳細は、Sun Blade X6270 サーバーモジュールの「Wake On LAN – Remote Power On」を参照してください。

第4章

VMware のインストール

この章では、次に示す VMware のインストールに必要な手順の概要を示します。

- VMware ESX 3.5 Update 4 (またはそれ以降のリリース)
- VMware ESXi 3.5 Update 4 (またはそれ以降のリリース)

具体的には、この章には VMware サービスコンソールのネットワークインタフェースカード (Network Interface Card、NIC) を選択するための情報が掲載されています。

注 – VMware ESX 3.5 は以前は VMware ESX Server 3.5 と呼ばれ、VMware ESXi 3.5 は VMware ESX Server 3i バージョン 3.5 と呼ばれていました。

この章で説明されているトピックは次のとおりです。

- [42 ページ](#)の「VMware サービスコンソールのネットワークインタフェース接続の計画」
- [44 ページ](#)の「VMware ESX または ESXi のインストール」
 - [44 ページ](#)の「作業を開始する前に」
 - [45 ページ](#)の「VMware ESX または ESXi のインストール」

VMware サービスコンソールのネットワークインタフェース接続の計画

VMware のサービスコンソールおよび管理インタフェースは、ライブネットワークインタフェースによって異なります。VMware ソフトウェアのインストール中に、ライブネットワークインタフェースをホスト管理用サービスコンソールに関連付けてください。

VMware セットアッププロセスでは、サーバーにインストールされている NIC が自動的に検出されて「ネットワークの構成 (Network Configuration)」ダイアログに表示されます。このダイアログでは、ライブネットワークインタフェースを VMware サービスコンソール (vmmnic0) に指定してください。図 4-1 および 図 4-2 を参照してください。

図 4-1 VMware ESX のインストール – 表示されるネットワークインタフェースの例

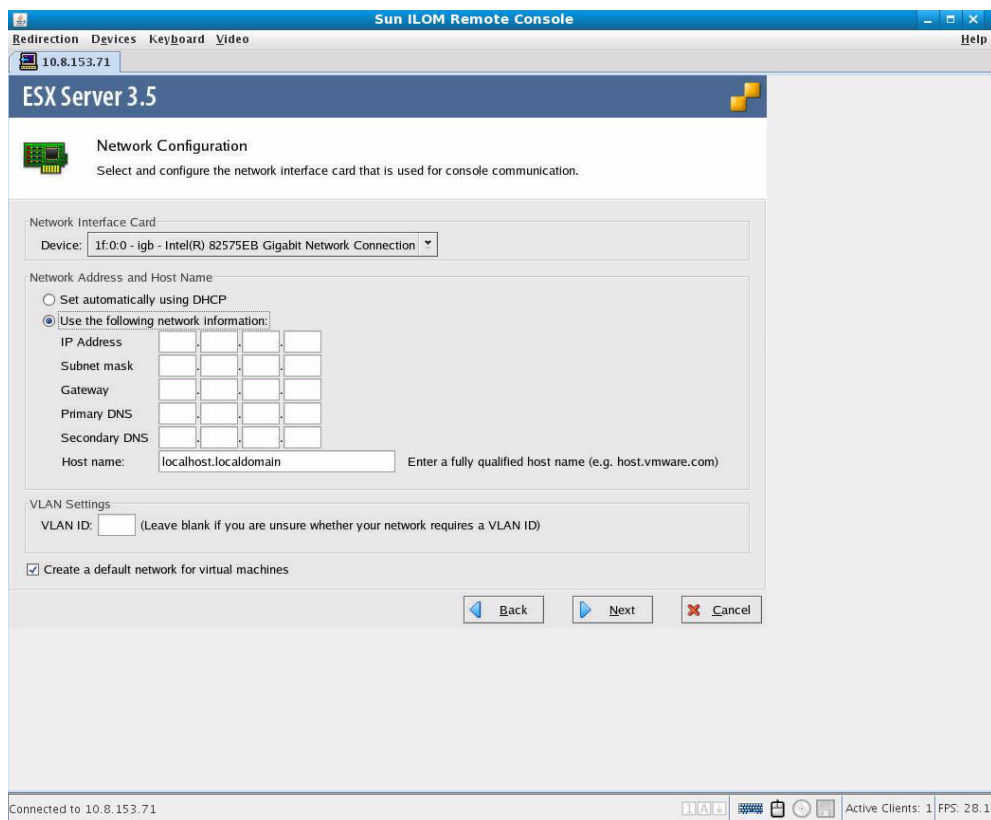
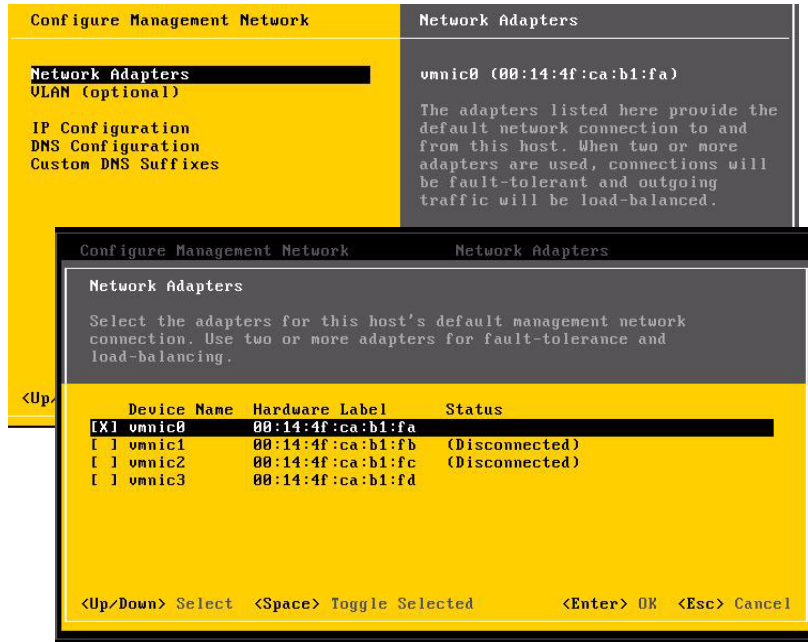


図 4-2 VMware ESXi のインストール – 表示されるネットワークインタフェースの例



使用しているシステムに複数の NIC が搭載されていると、NIC を物理ポートに関連付けることが困難な場合があります。PCI バスのラベルを NIC の物理ポートに変換する方法を決定するには、「付録 A」を参照してください。

VMware ESX または ESXi のインストール

次の手順では、ローカルまたは遠隔のインストールメディアから VMware (ESX または ESXi) をインストールする手順の概要を示します。この手順では、次のいずれかのソースから VMware のインストールメディアをブートすることを前提とします。

- VMware ESX または ESXi 3.5 Update 4 の CD または DVD セット (内部または外部の CD/DVD)
- VMware ESX または ESXi 3.5 Update 4 の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

作業を開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を確認してください。

- オペレーティングシステムのインストールに適用される前提条件がすべて満たされているようにしてください。これらの前提条件についての詳細は、[4 ページの表 1-2 「OS インストールの前提条件」](#) を参照してください。
- インストールを実行する前に、インストール方法 (例: コンソール、ブートメディア、インストールターゲット) を選択して確立しておくことをお勧めします。これらのセットアップ要件については、[6 ページの「インストール方法」](#) を参照してください。
- VMware サービスコンソールの管理サーバーへのネットワーク接続が確立されていることを確認します。詳細については、[42 ページの「VMware サービスコンソールのネットワークインタフェース接続の計画」](#) を参照してください。
- VMware ESX または ESXi のインストールの実行方法についての詳細は、次のサイトにある VMware ESX または ESXi のドキュメントを参照してください。

http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html

▼ VMware ESX または ESXi のインストール

1. インストールメディアでブートできる状態にする必要があります。

次に例を示します。

- **CD/DVD 配布メディアの場合。**ローカルまたは遠隔の USB CD/DVD-ROM ドライブに VMware 3.5 配布メディアブートディスク (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
- **ISO イメージの場合。**ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションでブートディスクイメージ (CD #1 または DVD) が選択されていることを確認します (「デバイス (Device)」メニュー --> 「CD-ROM イメージ (CD-ROM Image)」)。

インストールメディアをセットアップする方法についての詳細は、[7 ページの表 1-4 「OS インストールを実行するためのブートメディアオプション」](#)を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

たとえば、次のように入力します。

- **ILOM Web インタフェース**で「リモート制御 (Remote Control)」--> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」を選択し、「ホストアクション (Host action)」リストボックスで「電源サイクル (Power Cycle)」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーの前面パネルの電源ボタン**を (約 1 秒間) 押してサーバーの電源を切り、もう一度電源ボタンを押して電源を入れます。
- **サーバー SP の ILOM CLI**で、次のように入力します。`reset /SYS`
- **CMM の ILOM CLI**で、次のように入力します。`reset /CH/BLn/SYS`
n は、シャーシ内にあるサーバーモジュールのスロット番号です。

BIOS 画面が表示されます。

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。メッセージが短時間画面に表示される間、メッセージを注意深く観察します。スクロールバーが表示されないように画面のサイズを拡大してもかまいません。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、VMware インストールの一時的な起動デバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。

4. 「Please Select Boot Device」メニューで、一次起動デバイスとして外部または仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。
「Please Select Boot Device」メニューに一覧表示されているデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、製品 ID 文字列の形式になっています。数秒後に、VMware インストールのスプラッシュ画面が表示されます。
5. VMware のインストールを実行します。
ESX または ESXi 用の VMware インストールガイドを参照すると、インストールプロセスで役立ちます。詳細は、次のサイトを参照してください。
http://www.vmware.com/support/pubs/vi_pubs.html
VMware のインストールが完了すると、システムが再起動され、VMware サービスコンソールの設定ダイアログが表示されます。
6. ESX の「Network Configuration」ダイアログまたは ESXi の「管理ネットワークの構成 (Configure Network Management)」ダイアログで、VMware サービスコンソールのライブネットワーク接続を設定します。
VMware サービスコンソールのネットワークインタフェース構成の選択方法についての詳細は、[42 ページの「VMware サービスコンソールのネットワークインタフェース接続の計画」](#)を参照してください。
7. 必要に応じて、ESX または ESXi ソフトウェアを最新の更新およびパッチで更新します。
詳細は、次のサイトを参照してください。
http://www.vmware.com/download/vi/vi3_patches.html

第5章

Solaris 10 のインストール

この章では、Sun Blade X6270 サーバーモジュールに Solaris 10 10/08 オペレーティングシステム (Solaris 10 10/08 Operating System、Solaris 10 OS) をインストールする方法について説明します。

注 – ストレージドライブ上に RAID セットを作成する場合、OS をインストールする前にドライブ上に RAID セットを作成することをお勧めします。詳細は、『Sun Disk Management Overview For x64 Sun Fire and Sun Blade Series Servers』(820-6350) を参照してください。

この章では、次の項目について説明します。

- 48 ページの「Solaris 10 インストールの作業マップ」
- 49 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した Solaris 10 のインストール」
- 55 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Solaris 10 OS のインストール」
- 61 ページの「Solaris インストール後の作業」

インストール済みの Solaris 10 OS イメージを設定する方法については、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール設置マニュアル』(820-7765) の設定手順を参照してください。

Solaris 10 インストールの作業マップ

表 5-1 を使用して、一連の作業として定義されているインストールプロセスを確認します。この表では、必須作業について示し、その作業の実行手順へのリンクを提示します。

表 5-1 Solaris 10 インストールの作業マップ

手順	作業	説明	関連トピック
1	インストールの前提条件を確認します。	Sun Blade X6270 サーバーモジュールにオペレーティングシステムをインストールする場合に適用される要件がすべて満たされていることを確認します。	<ul style="list-style-type: none">• 4 ページの表 1-2 「OS インストールの前提条件」
2	インストール方法を選択します。	使用しているインフラストラクチャーのニーズを満たすインストール方法を評価し、選択します。	<ul style="list-style-type: none">• 6 ページの「インストール方法」
3	BIOS が出荷時のデフォルトに設定されていることを確認します。	オペレーティングシステムのインストールを実行する前に、BIOS が出荷時のデフォルト設定に設定されていることを確認します。	<ul style="list-style-type: none">• 10 ページの「新規インストールの BIOS 設定の確認」
4	Solaris 10 10/08 のインストールメディアを収集します。	Solaris 10 OS に付属しているインストール用 CD/DVD メディアやマニュアルには、SPARC プラットフォーム版と x86 プラットフォーム版があります。 Sun Blade X6270 サーバーモジュールには、x86 プラットフォーム用のメディアを使用してください。	<ul style="list-style-type: none">• Solaris 10 10/08 のメディアは、次のサイトでダウンロードまたは注文できます。 http://www.sun.com/servers/blades/downloads.jsp
5	Solaris 10 10/08 OS のインストールを実行します。	この章のインストール手順では、インストールメディアのブートおよび Solaris インストールプログラムの起動に必要な初期の手順について説明します。 Solaris 10 10/08 のインストールについての詳細は、『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』(819-0314) を参照してください。	<ul style="list-style-type: none">• 49 ページの「ローカルまたは遠隔メディアを使用した Solaris 10 のインストール」または• 55 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Solaris 10 OS のインストール」
6	必要に応じて、OS のインストール後にドライバをインストールします。	使用しているシステムをサポートするのに必要なデバイスドライバが Solaris オペレーティングシステムに含まれていない場合、追加のデバイスドライバのインストールが必要な場合があります。	<ul style="list-style-type: none">• 61 ページの「追加のハードウェアをサポートするシステムデバイスドライバのインストール」
7	必要に応じて、OS のインストール後にパッチをインストールします。	必要に応じて、システムに関連する重要な Solaris パッチをインストールします。 Solaris パッチには、新機能、拡張機能、または既知の問題の修正が含まれます。	<ul style="list-style-type: none">• 62 ページの「重要な Solaris パッチのインストール」

ローカルまたは遠隔メディアを使用した Solaris 10 のインストール

次の手順では、Solaris オペレーティングシステムをローカルまたは遠隔メディアからブートする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースからインストールメディアをブートすることを前提とします。

- Solaris 10 10/08 以降のリリースの CD または DVD セット (内部または外部の CD/DVD)
- Solaris 10 10/08 の ISO DVD イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – PXE 環境からインストールメディアをブートする場合は、[55 ページの「PXE ネットワーク環境を使用した Solaris 10 OS のインストール」](#)の手順を参照してください。

作業を開始する前に

インストールを実行する前に、次の要件を確認してください。

- オペレーティングシステムのインストールに適用される前提条件がすべて満たされているようにしてください。これらの前提条件についての詳細は、[4 ページの表 1-2「OS インストールの前提条件」](#)を参照してください。
- インストールを実行する前に、インストール方法 (例: コンソール、ブートメディア、インストールターゲット) を選択して確立しておくことをお勧めします。これらの設定要件については、[6 ページの「インストール方法」](#)を参照してください。

次の手順では、インストールメディアのブートおよび Solaris インストールプログラムの起動に必要な初期の手順について説明します。Solaris 10 のインストールについての詳細は、『Solaris 10 インストールガイド (基本編)』(819-0314)を参照してください。

この手順を完了したあとで、この章の後半で説明する、インストール後の必須作業を確認して実行するようにしてください。詳細は、[61 ページの「Solaris インストール後の作業」](#)を参照してください。

▼ ローカルまたは遠隔メディアを使用した Solaris 10 のインストール

1. インストールメディアでブートできる状態にする必要があります。

たとえば、次のように入力します。

- **Distribution CD/DVD の場合。** ローカルまたは遠隔の USB CD/DVD-ROM ドライブに Solaris 10 配布メディア (CD #1 または単一の DVD) を挿入します。
- **ISO イメージの場合。** ISO イメージが使用可能であり、ILOM リモートコンソールアプリケーションが 1 番目の ISO イメージの場所を認識していることを確認します (「Device」メニュー --> 「CD-ROM Image」)。

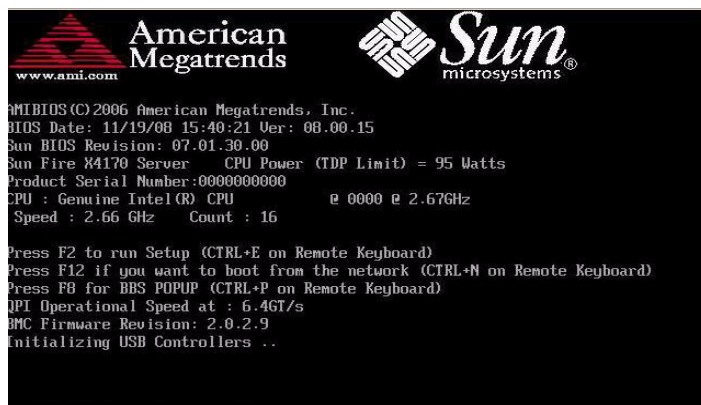
インストールメディアをセットアップする方法についての詳細は、[7 ページの表 1-4 「OS インストールを実行するためのブートメディアオプション」](#) を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

たとえば、次のように入力します。

- **ILOM Web インタフェース**で「Remote Control」-->「Remote Power Control」を選択し、「Host action」ドロップダウンリストボックスで「Power Cycle」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーの前面パネルの電源ボタン**を (約 1 秒間) 押してサーバーモジュールをオフにし、もう一度電源ボタンを押してオンにします。
- **サーバーモジュール SP の ILOM CLI**で、次のように入力します。 `reset /SYS`
- **CMM の ILOM CLI**で、次のように入力します。 `reset /CH/BLn/SYS`
`n` は、シャーシ内にあるサーバーモジュールのスロット番号です。

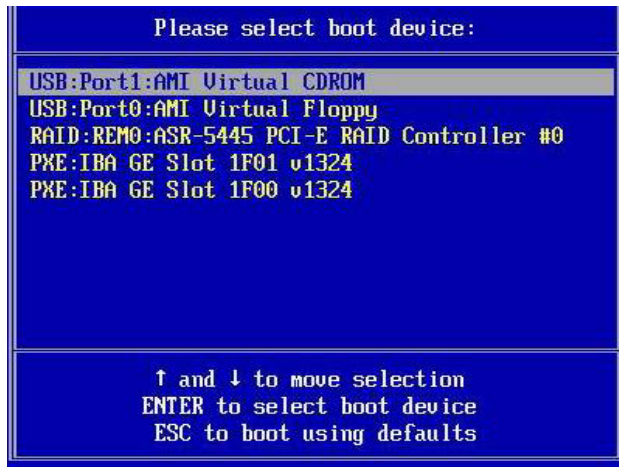
BIOS 画面が表示されます。



注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。メッセージが短時間画面に表示される間、メッセージを注意深く観察します。

3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト画面で、F8 キーを押して、Solaris インストールの一時的な起動デバイスを指定します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。



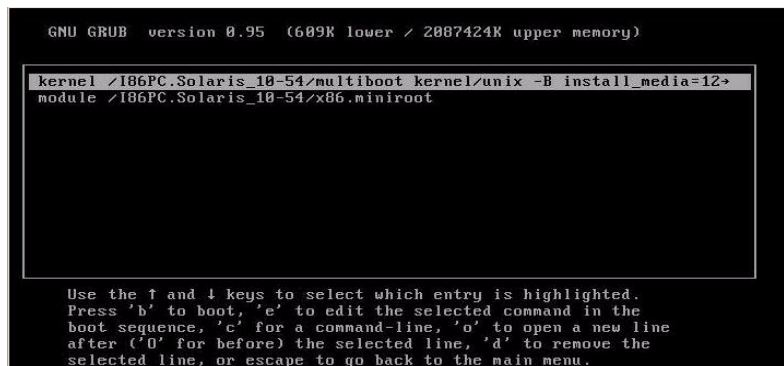
4. 「Please Select Boot Device」メニューで、(一時的な) 一次起動デバイスとして外部または仮想 CD/DVD デバイスを選択し、Enter キーを押します。

「Please Select Boot Device」画面の例では、仮想 CD/DVD デバイスが一次起動デバイスとして指定されています。

「Please Select Boot Device」メニューに一覧表示されているデバイス文字列は、デバイスタイプ、スロットインジケータ、製品 ID 文字列の形式になっています。

注 - ILOM リモートコンソールアプリケーションから Solaris インストールを実行する場合は、「Please Select Boot Device」メニューで「AMI Virtual CDROM」を選択する必要があります。

GRUB メニューが表示されます。



5. GRUB メニューで、Solaris を選択して Enter キーを押します。

注 – インストールの出力をシリアルコンソールにリダイレクトする場合、GRUB メニューで「e」を押し、シリアルコンソールがサポートされるように GRUB メニューを編集します (-B console=ttya)。

Solaris ディスクイメージがメモリーに読み込まれます。このプロセスには数分かかる場合があります。読み込みが完了すると、インストールタイプメニューが表示されます。

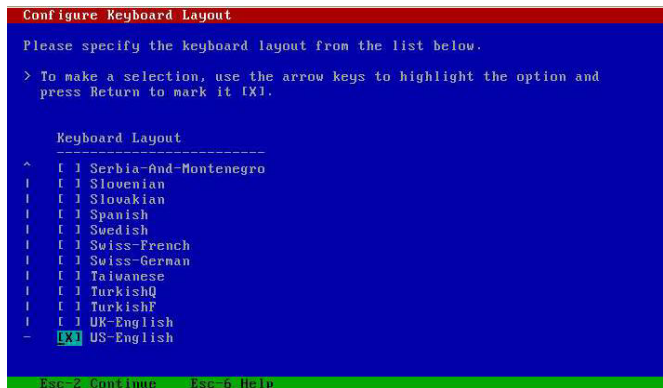
```
returned NULL)
WARNING: There will be no MCA support on chip 1 core 0 strand 5 (cni_hdl_create
returned NULL)
WARNING: There will be no MCA support on chip 0 core 0 strand 7 (cni_hdl_create
returned NULL)
WARNING: There will be no MCA support on chip 1 core 0 strand 7 (cni_hdl_create
returned NULL)
Configuring devices.
/
1. Solaris Interactive (default)
2. Custom JumpStart
3. Solaris Interactive Text (Desktop session)
4. Solaris Interactive Text (Console session)
   (Select option 3 or 4 to install a ZFS root file system)
5. Apply driver updates
6. Single user shell
Enter the number of your choice.
Automatically continuing in 27 seconds
```

6. インストールタイプメニューで、インストールの実行に使用するインターフェースの種類を選択します。

- グラフィカルユーザーインターフェース (デフォルト)
1 を入力して Enter キーを押します。
- デスクトップセッションからのテキストインストーラ
3 を入力して Enter キーを押します。
- コンソールセッションからのテキストインストーラ
4 を入力して Enter キーを押します。

注 – 使用しているシステムで表示される画面は、手順 6 で設定したインターフェースの種類によって異なる場合があります。この手順で表示される以降の画面の例は、デフォルトのグラフィカルユーザーインターフェース (graphical user interface、GUI) オプション (オプション 1) を選択した場合の画面です。

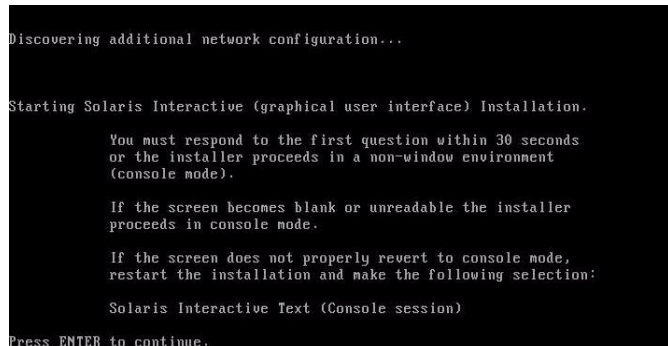
システムにより、デバイスおよびインターフェースが検出されて設定されます。キーボードが検出されると、「Configure Keyboard Layout」メニューが表示されます。



7. 「Configure Keyboard Layout」メニューで、適切なキーボードレイアウトを選択してから、F2 キーを押して続行します。

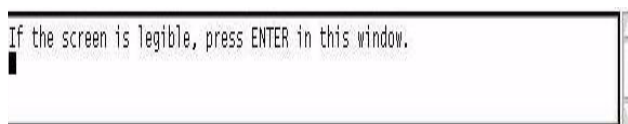
システムにより、選択したキーボードレイアウトが設定され、構成ファイルが検索されます。

前の手順で GUI インストールを選択した場合、次の 2 つの手順 (手順 8 と 9) で GUI が機能しているかどうかを確認します。前の手順で GUI インストールを選択しなかった場合、手順 10 に進みます。



8. 「Discovering Network Configurations and Starting Solaris Interactive Installation」画面で、Enter を押します。

GUI が機能しているかどうかを確認するために、もう 1 つの画面が表示されます。



9. 表示されたテキストが判読可能な場合、この画面で Enter キーを押します。
「Language Selection」メニューが表示されます。

10. 「Language Selection」メニューで、選択した言語 ID 番号 (0-9) を入力し、Enter キーを押します。

数秒後に、Solaris インストールプログラムの開始画面が表示されます。

注 – 次に示す画面の例は、GUI インストールプログラムを選択した場合の画面です。テキストベースのインストールインタフェースを実行する場合には、テキストベースの Solaris プログラムによる開始画面が表示されます (この手順では示しません)。



11. 開始画面で、「次へ」をクリックしてインストールを開始します。
Solaris インストールプログラムでは、いくつかの設定画面が表示されます。
12. 通常の Solaris インストールを進めてください。また、追加の詳細については、必要に応じて Solaris ドキュメントを参照してください。
インストールが完了したあとで、(設定画面で再起動を選択した場合には) システムが再起動され、Solaris ログインプロンプトが表示されます。

注 – インストール完了時に自動的に再起動するようにシステムを設定しなかった場合は、システムを手動で再起動します。

13. の 61 ページの「Solaris インストール後の作業」に進み、Solaris 設定後の作業を実行してください。

PXE ネットワーク環境を使用した Solaris 10 OS のインストール

次の手順では、Solaris オペレーティングシステムのインストールを PXE ネットワーク環境からブートする方法について説明します。この手順では、次のいずれかのソースを使用してインストールをブートすることを前提とします。

- Solaris 10 10/08 以降のリリースの CD または DVD セット (内部または外部の CD/DVD)
- Solaris 10 10/08 の ISO DVD イメージまたは Solaris JumpStart™ イメージ (ネットワークリポジトリ)

注 – JumpStart を使用すると、複数のサーバー上で Solaris オペレーティングシステムを最初に設定する際に行う手動作業の一部または大部分を省略できます。JumpStart イメージの使用方法については、『Solaris 10 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』(819-0341) を参照してください。

作業を開始する前に

Solaris 10 PXE インストールを実行する前に、次の要件を満たしてください。

- PXE を使用してネットワーク経由でインストールメディアをブートするには、次の作業を完了しておくようにしてください。
 - インストールをエクスポートするように PXE ブートインストールサーバーを設定します。

注 – PXE ネットワーク起動は、複数の DHCP サーバーがあるサブネット上では正常に機能しません。このため、インストールするクライアントシステムがあるサブネット上には、DHCP サーバーを 1 台だけ設定するようにしてください。

- Sun Blade X6270 サーバーモジュールの MAC ネットワークポートアドレスを PXE ブートインストールサーバー上のクライアントシステムとして設定します。

ネットワークから Solaris 10 を設定してインストールする方法についての詳細は、『Solaris 10 Installation Guide: Network Installations』(817-0544) を参照してください。

- 使用するインストールメディアソースが JumpStart インストールイメージの場合、そのイメージを適切に準備してインストールできるようにします。JumpStart インストールを適切に設定して配置する方法についての情報は、このガイドには掲載されていません。

Solaris JumpStart イメージの作成方法についての詳細は、『Solaris 10 インストールガイド (カスタム JumpStart/ 上級編)』(819-0341) を参照してください。

次の手順を完了したあとで、この章の後半で説明する、インストール後の必須作業を確認して実行するようにしてください。詳細は、61 ページの「Solaris インストール後の作業」を参照してください。

▼ ネットワーク PXE ブートを使用した Solaris 10 のインストール

1. PXE ネットワーク環境が適切に設定され、Solaris インストールメディアで PXE ブートできる状態であることを確認します。

詳細は、『Solaris 10 Installation Guide: Network Installations』(817-0544) の「Planning to Install From Network」の節を参照してください。

2. サーバーの電源をリセットします。

たとえば、次のように入力します。

- **ILOM Web インタフェース**で「Remote Control」-->「Remote Power Control」を選択し、「Host action」ドロップダウンリストボックスで「Power Cycle」オプションを選択します。
- **ローカルサーバーの前面パネルの電源ボタン**を (約 1 秒間) 押してサーバーをオフにし、もう一度電源ボタンを押してオンにします。
- **サーバー SP の ILOM CLI**で、次のように入力します。**reset /SYS**
- **CMM の ILOM CLI**で、次のように入力します。**reset /CH/BLn/SYS**
n は、シャーシ内にあるサーバーモジュールのスロット番号です。

BIOS 画面が表示されます。

```
www.ami.com American Megatrends Sun microsystems
MBIOS (C) 2006 American Megatrends, Inc.
BIOS Date: 11/19/08 15:40:21 Ver: 08.00.15
Run BIOS Revision: 07.01.30.00
Sun Fire X4170 Server CPU Power (TDP Limit) = 95 Watts
Product Serial Number:0000000000
CPU : Genuine Intel(R) CPU @ 0000 @ 2.67GHz
Speed : 2.66 GHz Count : 16
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)
Press F12 if you want to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
Press F8 for BIOS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)
IPF Operational Speed at : 6.46T/s
iMC Firmware Revision: 2.0.2.9
Initializing USB Controllers...
```

注 - 次のイベントがすぐに発生するため、以下のステップでは集中する必要があります。メッセージが短時間画面に表示される間、メッセージを注意深く観察します。

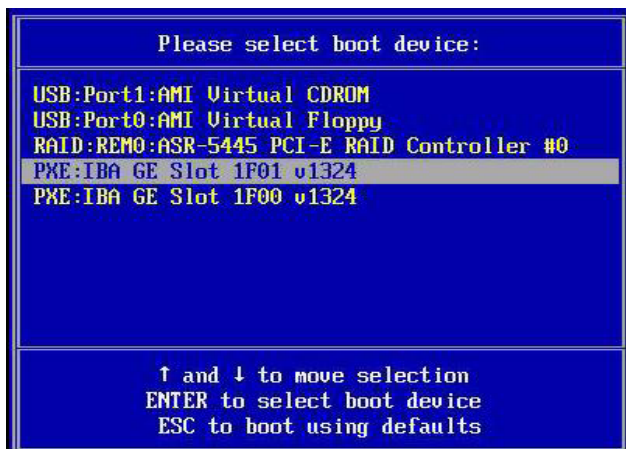
- 3. BIOS の電源投入時の自己診断テスト (power-on self-test、POST) 画面で、F8 キーを押して一時的な起動デバイスを指定し、Enter キーを押します。

「Please Select Boot Device」メニューが表示されます。

- 4. 「Please Select Boot Device」メニューで、適切な PXE ブートポートを選択し、Enter キーを押します。

PXE ブートポートは、ネットワークインストーラサーバーと通信するように設定された物理ネットワークポートです。

次の「Please Select Boot Device」メニューの例に一覧表示されているオプションは、使用しているシステムの起動デバイスメニューで表示されるオプションとは異なる場合があります。



起動デバイスを選択すると、GRUB メニューが表示されます。

5. GRUB メニューで、Solaris を選択して Enter キーを押します。

注 – インストールの出力をシリアルコンソールにリダイレクトする場合、GRUB メニューで「e」を押し、シリアルコンソールがサポートされるように GRUB メニューを編集します (-B console=ttya)。

Solaris ディスクイメージがメモリーに読み込まれます。このプロセスには数分かかる場合があります。読み込みが完了すると、インストールタイプメニューが表示されます。

```
WARNING: There will be no MCA support on chip 1 core 0 strand 7 (cni_hd1_create
returned NULL)

Configuring devices.

1. Solaris Interactive (default)
2. Custom JumpStart
3. Solaris Interactive Text (Desktop session)
4. Solaris Interactive Text (Console session)
   (Select option 3 or 4 to install a ZFS root file system)
5. Apply driver updates
6. Single user shell

Enter the number of your choice.
Automatically continuing in 27 seconds
```

6. インストールタイプメニューで、インストールの実行に使用するインタフェースの種類を選択します。

- グラフィカルユーザーインタフェース (デフォルト)
1 を入力して Enter キーを押します。
- デスクトップセッションからのテキストインストーラ
3 を入力して Enter キーを押します。
- コンソールセッションからのテキストインストーラ
4 を入力して Enter キーを押します。

注 – 使用しているシステムで表示される画面は、手順 6 で設定したインタフェースの種類によって異なる場合があります。この手順で表示される以降の画面の例は、デフォルトのグラフィカルユーザーインタフェース (graphical user interface、GUI) オプション (オプション 1) を選択した場合の画面です。

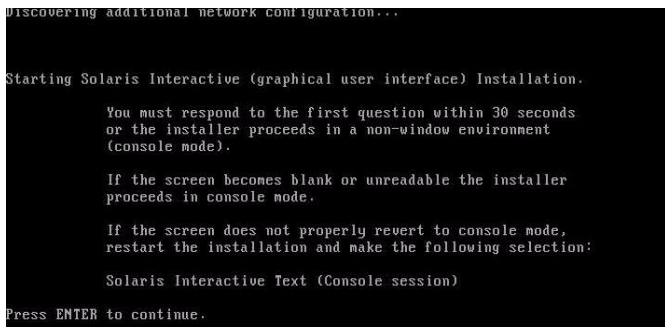
システムにより、デバイスおよびインタフェースが検出されて設定されます。キーボードが検出されると、「Configure Keyboard Layout」メニューが表示されます。



7. 「Configure Keyboard Layout」メニューで、適切なキーボードレイアウトを選択してから、F2 キーを押して続行します。

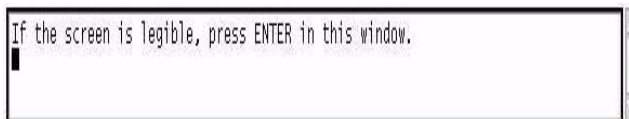
システムにより、選択したキーボードレイアウトが設定され、構成ファイルが検索されます。

前の手順で GUI インストールを選択した場合、次の 2 つの手順 (手順 8 と 9) で GUI が機能しているかどうかを確認します。前の手順で GUI インストールを選択しなかった場合、手順 10 に進みます。



8. 「Discovering Network Configurations and Starting Solaris Interactive Installation」画面で、Enter を押します。

GUI が機能しているかどうかを確認するために、もう 1 つの画面が表示されます。

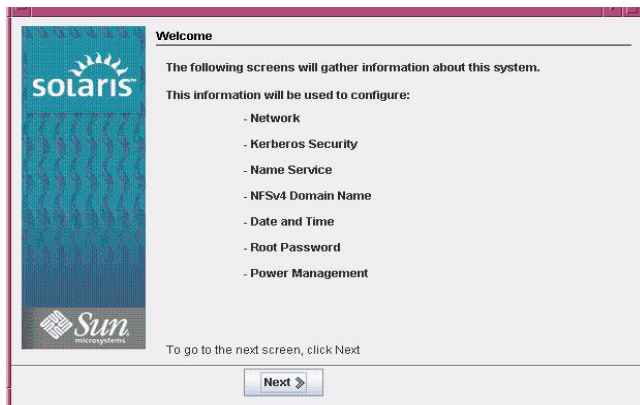


9. 表示されたテキストが判読可能な場合、この画面で Enter キーを押します。
「Language Selection」メニューが表示されます。

10. 「Language Selection」メニューで、選択した言語 ID 番号 (0-9) を入力し、Enter キーを押します。

数秒後に、Solaris インストールプログラムの開始画面が表示されます。

注 – 次に示す画面の例は、GUI インストールプログラムを選択した場合の画面です。テキストベースのインストールインタフェースを実行する場合には、テキストベースの Solaris プログラムによる開始画面が表示されます (この手順では示しません)。



11. 開始画面で、「次へ」をクリックしてインストールを開始します。

すべてのシステム情報を事前に設定した場合、設定情報の入力を求めるプロンプトはインストールプログラムでは表示されません。一部のシステム情報を事前に設定しなかった場合、インストールプログラムにより、いくつかの設定画面で未設定の情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。

12. 通常の Solaris インストールを進めてください。また、追加の詳細については、必要に応じて Solaris ドキュメントを参照してください。

インストールが完了したあとで、(設定画面で再起動を選択した場合には) システムが再起動され、Solaris ログインプロンプトが表示されます。

注 – インストール完了時に自動的に再起動するようにシステムを設定しなかった場合は、システムを手動で再起動します。

13. の 61 ページの「Solaris インストール後の作業」に進み、Solaris 設定後の作業を実行してください。

Solaris インストール後の作業

Solaris インストールを完了したら、次に示すインストール後の作業を確認し、必要に応じて、使用しているシステムに該当する作業を実行します。

- 61 ページの「追加のハードウェアをサポートするシステムデバイスドライバのインストール」
- 62 ページの「重要な Solaris パッチのインストール」
- 62 ページの「Wake On LAN のサポートを有効にする」(省略可能)

追加のハードウェアをサポートするシステムデバイスドライバのインストール

次の表は、使用しているシステムにインストールできるシステムデバイスドライバを示します。使用中のシステムに現在インストールが必要なドライバがあるかどうかを、この表で確認してください。

表 5-2 追加のハードウェアをサポートするデバイスドライバ

ハードウェアデバイス	必要なドライバ	指示書	ドライバをダウンロードできるサイト
Sun™ Dual Port DDR IB Host Channel Adapter PCIe Express Module (X4216A-Z)	Hermon デバイスドライバ	Hermon デバイスドライバは、Solaris InfiniBand (IB) Updates 3 ソフトウェアリリースに付属しています。	http://www.sun.com/download/index.jsp?cat=Hardware%20Drivers&tab=3&subcat=InfiniBand
Sun™ Dual Port 4x QDR Low Profile IB PCIe® Host Channel Adapter (X4219A-Z)		このデバイスドライバの詳細は、次のサイトを参照してください。 http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-2254/hermon-7d?a=view	

重要な Solaris パッチのインストール

表 5-3 は、使用しているシステムにインストールできる重要な Solaris パッチを示します。使用中のシステムに現在インストールが必要なパッチがあるかどうかを、この表で確認するようにしてください。

表 5-3 重要な Solaris パッチ

重要な Solaris パッチ	説明	パッチをダウンロードできるサイト
138626-02	igb ギガビット Ethernet ドライバを使用すると、max_frame_size を超えるパッケージが送信される場合があります。この既知の問題 (CR 6716686) により、NFS がボード上の igb ポートで書き込み処理を行ったときにシステムがハングアップする可能性があります。	
138889-02	Sun Blade X6270 Intel プロセッサのパフォーマンスカウンタのサポート (CR 6661753)。ディスクレス MP システムの mp_startup() の修正 (CR 6657646)。	www.sunsolve.sun.com
139882-01	Solaris UHCI ドライバの修正。これにより、BIOS で EHCI-2 が有効になっているときの割り込み処理が修正されます (CR 6681221)。	
138888-06	LFMA のロック競合の修正。これにより、FMA 対応 NIC ドライバの性能が向上します (CR 6720262)。	

Wake On LAN のサポートを有効にする

オペレーティングシステムをインストールしたあとで、BIOS 設定ユーティリティの Wake On LAN (WOL) をオプションを有効にすることをお勧めします。この機能を使用すると、ネットワーク上の別の場所からサーバーの電源を投入できます。WOL を有効にするための要件の詳細は、『Sun Blade X6270 サーバーモジュール Service Manual』の Wake On LAN についての節を参照してください。

RAID 管理ソフトウェアのインストール

Sun Blade RAID Expansion Module Adapter (x4620A) がサーバーにインストールされている場合、ツールとドライバ CD/DVD に収録されている RAID 管理ソフトウェアをインストールするようにしてください。使用しているシステムに RAID 管理ソフトウェアをインストールしない場合、システムはディスクエラーを検出して報告することができなくなります。

Adaptec 社の RAID ストレージ管理ソフトウェアには、ツールとドライバ CD/DVD の次の場所でアクセスできます。

```
solaris/tools/raid_adaptec
```

付録 A

ネットワークインタフェースカード の PCI バス番号から物理ネットワー クポートへの変換

この付録では、VMware サービスコンソールを設定するために適切なネットワーク
インタフェースカードを特定するのに役立つ情報を提供します。

Sun Blade 6000 または 6048 シヤーシで生成されるネットワークインタフェースカー
ドの PCI バス番号を変換するには、次の表を参照してください。

- [64 ページの表 A-1 「Sun Blade 6000 シリーズ – NEM 用 PCI バス番号の変換」](#)
- [64 ページの表 A-2 「Sun Blade 6000 シリーズ – 7284A-Z EM 用 PCI バス番号の
変換」](#)
- [65 ページの表 A-3 「Sun Blade 6000 シリーズ – EM 用 PCI バス番号の変換」](#)

表 A-1 Sun Blade 6000 シリーズ – NEM 用 PCI バス番号の変換

PCI バス: デバイス: 関数	ネットワークデバイス
1:f:0:0	NEM 0
1f:0:1	NEM 1

表 A-2 Sun Blade 6000 シリーズ – 7284A-Z EM 用 PCI バス番号の変換

PCI バス: デバイス: 関数	ネットワークデバイス	ブレードシャーシラベル	EM シャーシラベル	RJ-45 ネットワークポート
9:0:0/9:0:1/a:0:0/a:0:1	EM1	BL0	PCI EM 0.1	0/1/2/3
		BL1	PCI EM 1.1	0/1/2/3
		BL2	PCI EM 2.1	0/1/2/3
		BL3	PCI EM 3.1	0/1/2/3
		BL4	PCI EM 4.1	0/1/2/3
		BL5	PCI EM 5.1	0/1/2/3
		BL6	PCI EM 6.1	0/1/2/3
		BL7	PCI EM 7.1	0/1/2/3
		BL8	PCI EM 8.1	0/1/2/3
		BL9	PCI EM 9.1	0/1/2/3
f:0:0/f:0:1/10:0:0/10:0:1	EM0	BL0	PCI EM 0.0	0/1/2/3
		BL1	PCI EM 1.0	0/1/2/3
		BL2	PCI EM 2.0	0/1/2/3
		BL3	PCI EM 3.0	0/1/2/3
		BL4	PCI EM 4.0	0/1/2/3
		BL5	PCI EM 5.0	0/1/2/3
		BL6	PCI EM 6.0	0/1/2/3
		BL7	PCI EM 7.0	0/1/2/3
		BL8	PCI EM 8.0	0/1/2/3
		BL9	PCI EM 9.0	0/1/2/3

表 A-3 Sun Blade 6000 シリーズ – EM 用 PCI バス番号の変換

PCI バス: デバイス: 関数	ネットワークデバイス	ブレードシャーシラベル	EM シャーシラベル	RJ-45 ネットワークポート
7:0:0/7:0:1	EM1	BL0	PCI EM 0.1	0/1
		BL1	PCI EM 1.1	0/1
		BL2	PCI EM 2.1	0/1
		BL3	PCI EM 3.1	0/1
		BL4	PCI EM 4.1	0/1
		BL5	PCI EM 5.1	0/1
		BL6	PCI EM 6.1	0/1
		BL7	PCI EM 7.1	0/1
		BL8	PCI EM 8.1	0/1
		BL9	PCI EM 9.1	0/1
d:0:0/d:0:1	EM0	BL0	PCI EM 0.0	0/1
		BL1	PCI EM 1.0	0/1
		BL2	PCI EM 2.0	0/1
		BL3	PCI EM 3.0	0/1
		BL4	PCI EM 4.0	0/1
		BL5	PCI EM 5.0	0/1
		BL6	PCI EM 6.0	0/1
		BL7	PCI EM 7.0	0/1
		BL8	PCI EM 8.0	0/1
		BL9	PCI EM 9.0	0/1

索引

B

BIOS、新規インストールの設定の編集, 11

O

OS のローカルインストール

- RHEL4, 31
- RHEL5, 34
- SLES10, 18
- Solaris 10, 50
- VMware, 45

OS の遠隔インストール

- RHEL, 31
- RHEL5, 34
- RHEL、PXE, 38
- SLES10, 18
- SLES10、PXE, 21
- Solaris 10, 50
- Solaris 10、PXE, 56
- VMware, 45

P

PXE インストール

- RHEL, 37
- SLES の手順, 21

R

RAID 管理ソフトウェア

- Solaris, 62

RHEL OS

- PXE ネットワーク環境, 37
- ローカルまたは遠隔メディアでのインストール, 29

S

SLES OS

- PXE ネットワーク環境, 20
- インストールの作業マップ, 16
- インストール後の作業, 23
- ローカルまたは遠隔メディアでのインストール, 17

Solaris 10 OS

- PXE ネットワーク
手順, 56
- ローカルまたは遠隔メディアでのインストール, 49

V

VMware

- ESX または ESXi のインストール手順, 44
- ネットワークインタフェース接続の計画, 42

VMware、サービスコンソール

- EM 用 PCI バス番号, 64, 65
- NEM 用 PCI バス番号, 64

あ

アップデート、ダウンロード, vii

い

インストールの作業マップ

- Solaris, 48
- RHEL, 28
- SLES, 16

インストール後の作業

- SLES, 23
- Solaris, 61

インストーलターゲット, 9

インストールブートメディアオプション, 7

き

起動デバイス、一時 F8, 10

さ

サポートされているオペレーティングシステム, 2

せ

製品アップデート, vii

製品ドキュメント, viii

と

ドキュメント、Sun Blade X6270 サーバーモ
ジュール, viii

ドライバ、システムデバイス

SLES, 25

Solaris, 61

は

パッチ、重要な

Solaris, 62